

平成25年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成25年3月1日(金曜日)

議事日程第2号

平成25年3月1日(金曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君	
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君	
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君	
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君	
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君	
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君	
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君	
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者会計課	長	結城	一也君	
ガス水道局長		小林	忠君	消防	長	小林	強君	
教育	長	竹田	正光君	教育次長		伊奈	晃君	
教育委員会	こども課長	吉田	一郎君	教育委員会教育総務課長兼務				
教育委員会	文化振興課長			教育委員会生涯学習課長				
歴史民俗資料館	長兼務	佐々木	繁雄君	中央公民館長兼務		田原	秀夫君	
長者ヶ原考古館	長兼務			市民図書館長兼務				
				勤労青少年ホーム館長兼務				
				監査委員事務局	長	横田	靖彦君	

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	次	長	猪又	功君
主任	主査	水島	誠仁君	主	査	大西	学君

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、1番、甲村 聡議員、16番、池田達夫議員、両名を指名いたします。

次の日程に入ります前に、昨日2月28日に議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について委員長の報告を求めます。

甲村 聡議会運営委員会委員長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村委員長。〔1番 甲村 聡君登壇〕

1番（甲村 聡君）

おはようございます。

議会運営委員会報告を行います。

去る2月28日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果についてご報告いたします。

まず、追加議案についてであります。緊急経済対策を柱とする国の補正予算に対応する当市の補正予算の取り扱いにつきましては、本定例会初日の委員長報告において報告いたしましたが、2月26日に国の補正予算が成立しましたことから、議案第61号、平成24年度一般会計補正予算（第14号）、議案第62号、平成24年度公共下水道事業特別会計補正予算（第5号）及び議案第63号、平成24年度簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）の3件を追加提案したい旨、市長から申し出がありました。このことから、これを6日の一般質問終了後の日程事項とし、それぞれ所管の常任委員会に付託の上、ご審査いただくことで、委員会の意見の一致をみております。

次に、議会運営についてであります。平成24年9月議会から試行してまいりました一般質問の受け付け、発言順序の決定及び委員会発言（質疑時間）につきましては、今後は正式な決定事項として運用することで、委員会の意見の一致をみております。

以上で、議会運営委員会の委員長報告を終わります。

議長（古畑浩一君）

ただいまの委員長報告に対します質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りをいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めたいと思います。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、委員長報告のとおり進めることと決しました。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

次に、日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は15人ですが、議事の都合により本日4人、4日4人、5日4人、6日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わりますよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いをいたします。

なお、質問は通告の範囲内にとどめていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。〔14番 田原 実君登壇〕

14番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川21クラブの田原 実です。

通算で40回目の一般質問となりました。今回は、新幹線時代に対応した交流のまちづくりや、将来を担う若者たちの知恵を生かす地域づくりについて、市長、行政の考えを伺います。

また、市内、市外各地をめくりイベントに参加し、市民のご意見を伺いながら考えてきた私なりのビジョンをこの機会に提言したいと思います。

では、発言通告書に従い質問に移ります。

1、翠（みどり）の交流都市、さわやか・すこやか・輝きのまち 糸魚川市について。

8年前、新市の将来像として「翠（みどり）の交流都市、さわやか・すこやか・輝きのまち」を掲げ1市2町が合併した糸魚川市。その都市像の実現について伺います。

- (1) 「翠（みどり）の交流都市」の市民理解について。
- (2) 「翠（みどり）の交流都市」の紹介、情報発信について。
- (3) 都市交流と交流事業の運営について。
- (4) 近隣市町村との連携「あ・い・うえ・お」つながりについて。

この「あ・い・うえ・お」というのは、富山県朝日町の「あ」、糸魚川市の「い」、上越市の上を読みかえて「うえ」、長野県小谷村の「お」で「あ・い・うえ・お」、近隣市町村「あ・い・うえ・お」連携ということでご理解いただきたく、よろしく申し上げます。

(5) 新幹線時代に対応した首都圏、関西圏との連携と、交流事業について。

(6) 北陸本線全線開通100周年、相馬御風先生生誕130年の節目の年の対応について。

2、里山のにぎわいづくり、街なかのにぎわいづくりについて。

荒廃する農地、崩れゆく古民家、ひとり暮らし高齢者への心配は糸魚川市内共通の課題です。それは中山間地に限ったことでなく、いわゆる街なかにおいても同様です。しかし、糸魚川市には都会に暮らす人たちが魅力を感じる地域資源としての「里山」、「街なか」があります。そこに交流

人口を呼び込み、さらに定住人口につなげることも期待できます。

ただ、その実現には行政・市民がそのことに気づき、意識し、行動に移すことも求められます。具体的に以下の点について伺います。

- (1) 里山、街なかのにぎわいづくり、その行政対応について。
- (2) 里山、街なかに子どもや若者を呼び込む新しい取り組みについて。
- (3) 里山、街なかに都会の中高年世代を呼び込む新しい取り組みについて。
- (4) 里山、街なかの食文化を生かしたまちの元気づくりについて。
- (5) にぎわいまちづくりコーディネーターの育成について。
- (6) そこに住む人を増やすための、嫁とり、婿とり婚活サポート事業について。

3、能生国保診療所を核とする健康集落づくりについて。

現在建設計画が進む能生国保診療所。地域の医療と健康づくりの拠点として期待されています。今後は診療所と地域住民、近隣の温泉施設、宿泊施設などとも連携し、地域全体を元気にしていく新しい仕組みをつくることで、医療と健康づくりの先進地として糸魚川市が注目され、医師・看護師確保と地域振興の両方の効果も期待されると私は思います。

能生国保診療所を核とする健康集落づくりについて、これは提言になろうかと思いますが、市長・行政の考えを伺います。

以上、1回の質問です。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目及び2点目につきましては、総合計画基本構想の目標とする都市像として掲げたものであります。ホームページや広報、さらには市の封筒などを活用して紹介、周知に努めているところであります。市民の活動と交流により、活力ある美しいまちを目指すものであります。

3点目につきましては、市民や協賛団体のご協力をいただきながら、糸魚川市都市交流協会を組織し、市民レベルで各種交流事業を実施いたしております。

4点目につきましては、朝日町、上越市、小谷村など交流、連携を図っており、今後も可能なところと連携を強化してまいります。

5点目につきましては、東京及び関西の糸魚川会、さらには奴奈川市民ネットワークなど、連携をしながら事業拡大に努めております。

6点目につきましては、24年度の糸魚川駅開業100周年、大系線全線開通55周年事業の成果と反省点を検討し、昨日、北陸新幹線糸魚川駅開業記念事業実行委員会を立ち上げ、その中で北陸本線全線開通100周年事業についても取り組み、交流人口拡大に生かしてまいります。

また、御風生誕130年の対応につきましては、新潟日報社からのご協力により、本年4月から1年間、毎日、新潟日報の紙面に御風の短歌などを紹介するとともに企画展を実施するなど、御風をより広く顕彰してまいります。

2番目につきましては、にぎわいづくりには住みよい環境の整備が必要であり、そのことが定住人口や交流人口の増加につながるものと考えております。

そのためには市民と行政の協働が不可欠であり、お互いの役割分担を担いながら成果を分かち合う協働のまちづくりが、にぎわいづくりにつながるものと考えております。

当市の多様な自然資源や人文資源、さらには食の魅力などを情報発信することで、交流人口の拡大につながるものと考えております。空き家バンクを活用したU・J・Iターンの取り組みなど、定住人口の増加による地域活力の向上に取り組んでおります。

また、まちづくりサポーターズや各種団体の青年や女性組織によるまちづくり活動を支援するとともに、男女の出会いの機会創出を支援するなど、にぎわいづくりに向けた各種施策に取り組んでまいります。

3番目につきましては、能生国保診療所は能生地域の拠点診療所として、改築によりまして機能の充実を図ってまいります。

また、能生地域は地区公民館等が一体となって、自主的に健康づくりに取り組んでおりますので、市といたしましても引き続き連携を図りながら、地域の健康増進に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

翠の交流都市についての2回目の質問です。

新市糸魚川市が目指したのは翠の交流都市、これが日本ジオパークの認定、世界ジオパークの認定を受けたことで、ジオパークの推進ということ一色に変わってきましたね。このことに異議を唱えるものではありませんが、この機会に、翠の交流都市とジオパークのまちとの関係についてどう考えているか、すっきりと納得のいくお答えをいただきたいと思ひます。

また、翠の交流都市に関する市民に対しての説明、市外へのアピールはどうなっているか。

1つ具体例を挙げれば、糸魚川市のホームページにおいてジオパークの紹介はよくしてあるが、もともと目指していた翠の交流都市の紹介や解説が手薄になっているように思ひます。そのあたり、担当課に伺いたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

翠の交流都市とジオパークのまちの関係につきましては、翠の交流都市は当市の目標とする都市像であり、ジオパークは、その都市像に向かつての1つのアプローチであり、あるいは、またツールであるということと考えております。

市民への説明と市外のアピールについては、糸魚川ジオパークの世界認定を機に、ジオパークのまちが前面に出たような形ありますが、ジオパークのまちの思ひと、基本構想の都市像である翠

の交流都市に込めた思いは、地域資源と交流を基調とするということで、共通しているというふうに考えており、ホームページや広報等で、説明やアピールはできているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

今回この質問の趣旨は、糸魚川市という新潟県の西端に位置する人口4万7,000人、高齢化率33%の地方都市が、そこに住まう人、暮らす人はもちろん、市外、県外、国外の人々からどのようにイメージしてもらえるか、あるいは、よいイメージを持ってもらうにはどうしたらよいか。翠の交流都市であれジオパークであれ、交流と地域振興の仕組みづくりが、これまでの進め方でよかったのか、この機会に考えてみようというものです。これについて、担当課の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」は、やはり市全体のイメージに向かっていく、1つの都市像であるわけでありまして。そしてジオパークは、それとやはり相まって、それを醸成する1つのツールであると考えております。

ジオパークにつきましては非常に多様性が高く、そして、このふるさとの自然資源、または人文資源をしっかりと理解をし、ふるさとに愛着と誇りの持てる市民になっていただきたいということも、その中で進めていかれることでございますし、それをすることによって日本全体、またはそういった世界にもつながるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長、わかりました。私は納得しました。

ただ、今お答えいただいたことを、市民がどのくらい理解しているのかと。せっかく素晴らしいテーマを持ちながら、また、ジオパークとしてさまざまな事業を展開しながら、そして世界の名のつくタイトルももらったと。しかし、一部の市民の理解がないというような状況も聞くにつけて、その協力も得られないとなれば、とても残念なことであります。この点については、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

常々皆様方のこの問いにお答えさせていただいているように、まちおこし、地域おこしというのは、市民全員がその方向に向かうことが一番、私は成功する1つ鍵だろうと思ってるわけですが、今、議員ご指摘のように、100%そういう状態になってないじゃないかというご指摘については、私もその辺を感じておる次第でございます。

そのために、これは単にまちづくり、地域おこしだけではなくて、教育の中でも取り入れさせていただいて、ジオパークというのは、そういう教育にも非常につながりのあるものでございますし、そういったものと一体となって、今進めておる段階でございますし、いろいろなやはり手法や、また考えがあろうかと思うわけですが、納得、ご理解いただけるよう努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

どういう形がいいかわかりません。しかし、市民の皆さんとの対話の機会というのを設けるべきではないかと。そして市外、国外の人々に糸魚川のイメージ、そしてジオパークの取り組みというものをご伝えるか。よいイメージを持ってもらうには、どうしたらよいのかということをも市民と話し合っ、そして市長、行政と市民の思いが、基本、同じ方向を向いていかないと、まちの未来が心配であります。

翠の交流都市であれジオパークであれ、交流と地域振興の仕組みづくり、これがこれまでの進め方でよかったのかどうかを、幅広い層の市民が参加できて、意見を述べて、一緒に考える機会と場所をこちらで一度設けて、意思の疎通を図ることを提案しますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

幅広い市民の皆さんとの懇談の機会をとというご質問かと思えますけれども、これまでも合併後であります、市内の全ての自治会で地区訪問懇談会を開催したり、あるいはまた公民館単位で行政懇談会を開催したり、さらには各種団体からの要請もありますが、懇談の機会というのは数多くもってきたつもりであります。

今後につきましても、一律の懇談会という意見を聞くということだけの一方通行ではなくて、やはり地区からのテーマも出していただく中で、趣向を変えてといいましょうか、そういった懇談会も、今後開催していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市民とはよりコミュニケーションを深めて、納得のいく政治の運営ということをお願いしたいと思います。

次に、都市交流と交流事業の運営について伺います。

糸魚川市と他市町村との交流に関しては、以前の斉藤伸一議員の質問の中でもご説明をいただいておりますが、私が伺いたいことは、当市においても、また、相手先の都市においても、交流の窓口となる団体の高齢化などによって交流事業が鎮静化しているのではないかという心配と、その対策についてです。

前回の私の一般質問からの繰り越しとなり恐縮ですが、知音都市交流など交流プロジェクトへの若者の登用については、8月から関係都市でのブログを開催し、幅広い地域、世代に情報を発信している。今後も都市交流において、若者も参画しやすい事業展開を図っていききたいとの答弁をいただいております。今回は、その続きを伺っていききたいと思います。

交流事業というのは固定化、形式化してしまうと、本当に衰弱してしまいます。やはり若い人の発想、知恵、そして何より行動力というものが都市交流を元気にし、糸魚川を輝かせてくれるものになると思います。若い人の集め方、知恵の集め方について、その工夫と実践、これから行政はどう取り組むのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

おはようございます。

それでは、私のほうからお話をさせていただきます。現在、「カチューシャの唄」知音都市ブログというところをクリックしていただくとごらんいただけますけど、中には、あんこう祭りの交流会とか、あるいは真田十万石まつりというような、実際活動している知音都市グループでの報告があります。これらは1つには啓発活動、それから目にとまる、並びに親しみやすく、わかりやすくということで、少しホームページ等を活用しながら連携させていただいております。

また、広く親善訪問市民号というような姉妹都市の関係等では、非常に多くのおさかな祭り等で市民の皆さん、若い人を含めまして交流事業に参画していただいております。

また中の事業としては、都市交流協会の中では団体交流ということが補助制度として1つありまして、そのエリアの中では広範に市内のテニス、並びにソフトボールのグループ、それから体育協会の皆さん、それらの人たちが先方の都市と、それぞれ事業を展開することによっての交流、そういうもので広く携わっていただいております。

確かに会員については高齢化と、それからやっぱり急激な伸びというのは、なかなか期待されないとこですけども、このような広範な取り組みをしっかりと支えながら、もう少し啓発活動もしっかり力を入れて、広く市民の方に周知できるような活動も、また継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番(田原 実君)

私の思うのは、やはり若い方が都市と都市の間を行き来するという事なんですよ。それで親しくなって、お互いの地域の事をよく知って尊敬し合う、その交流、行ったり来たりということが距離を越えて行われる、それが若い人の行動力であり、また、それぞれのまちの未来をつくっていくというふうに考えるわけです。そういったことが現実的に行われるような取り組みというものを期待しているんですけども、その点はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長(滝川一夫君)

都市交流協会の会員の推移というのは、20人、30人がやはり年間退職されたり、脱会されたり、また新しい新規の会員ということで、やや微増ではありますけど推移をしてる状況です。なかなか若い人たちに、議員お話のとおり急激な展開は、今のところはちょっと辛い部分があるんですけど、先ほど回答させていただいた話のとおり、多面的な活動を展開する中で、特に先方へのおさかな祭りだとか、いろんな活動をしておりますので、それを通じながら若い人たちにも興味を持っていただけるような啓発を、しっかりしていきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田原議員。

14番(田原 実君)

私が若い時分に世話になりました島根県の旧金城町、今は浜田市になりますが、そちらがカチューシャの唄をきっかけとする知音都市交流を提唱して、ほかの都市との交流を始めました。若い人たちの行き来があって、本当にいい経験をさせていただきました。そこら辺の取り組みを今改めて、仕掛け人であるところの島根県の旧金城町の方たちに聞いてみてください。物すごいノウハウがあります、勉強になると思います、よろしく願いいたします。

次に、近隣市町村との連携「あ・い・うえ・お」つながりについてですが、なぜなそのような通告文を出し、戸惑いが生じたとすれば恐縮であります。

ここでのテーマは、まちの境界を接するお隣さんとの連携です。これまでも連絡協議会などの形で連携はとられてきましたが、そのマンネリ化は否めないと感じています。すぐ先の北陸新幹線開業と糸魚川への停車を考えれば、今こそ近隣市町村と連携してアピールするチャンスと思います。この取り組みはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長(滝川一夫君)

お話のとおり、2つのしっかりしたポイントを持たなければいけないと思ってます。1つは、この糸魚川駅をゲートウエーとして活用しながら、利活用をしっかりと図っていくということだと思えます。もう1つは、広域的なそれぞれの地域との連携によって、観光エリアとしての魅力をしっかり

り保つということだと思えます。この大きな2点に沿って、しっかり事業を展開していきたいし、それぞれ地域と連携を図ってまいりたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

基本はそうだと思うんですね。では、もう一步踏み込んで、どのように連携をとっていくのかというお答えがないと、もう新幹線開業はすぐ目の前にあるわけですよ。どのように連携をとっていくか、「あ・い・うえ・お」で産業の連携、そして観光の連携、今どのような話が進んでいますか。今回ここが一番伺いたいところですが、そもそも朝日町、上越市、小谷村の皆さんとの交流は、新市になって以来どう進んでいるか。

もう何年も前になりますが、私は一般質問で都市交流を取り上げ、先ほどお話した島根県の知音都市との交流の密度を上げる必要性と、人材交流を提言しました。それに対して、まずは近隣市町村との交流を充実させていくとの答弁がありました。その後、この近隣市町村との交流は深まったのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

昨年実施しました事業の1例を、ご紹介させていただきたいと思えます。

特に近隣市町村とは、議会の皆さんも非常に交流をたびたびされているというふうには認識しておりますけど、特に私どものほうもこの2年間、小谷村の職員と非常に懇談をする機会が多くなりました。特に、ことしについては春先に、マイクロバス1台で、職員を含めた地域のリーダー約20名が交流訪問ということで当市を訪れました。もちろん、根知にある塩の道の資料館とか親不知の断崖絶壁とかというのを、糸魚川を見ていただいて、夕方からは交流会に入っております。また、それに端を発しまして、小谷村のCATV、自主放送ですけども、1日糸魚川取材をしていただきまして、約1カ月半にわたって地域の映像として、糸魚川を紹介するというプログラムを小谷のほうでつくっていただきました。これらについては見てきたという各施設に、少しずつ話を聞くことが多くありましたので、一定程度の効果は、それなりに出ているのかなというふうに判断しております。

また、小谷に関しては関係者の皆さんもたくさんいますけど、塩の道のまず起点としての取り組みの1つの連携プランとして、25年度からは、そこら辺を少し中心的にプログラムに載せていただくような今連携も始まっております。少し増進したいと思えます。

また、上越に関しては、上越・糸魚川・妙高観光連携実行委員会というのを、上越の振興局を中心にして形成しております。その中では広域マップ等の活動もしっかりこの2年間、実績を積んでおりますので、周辺地域と交流人口の拡大にあわせて連携をしてまいりたいと、今後も考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番(田原 実君)

小谷から取材が来たというのはよかったですね。

さて、観光の地域連携を図る上で、住民同士がそれぞれの地域のことを知る、認めるということも非常に大事なことだと思います。それで、それぞれの地域の違いについて競い合うことも、地域間競争としては必要かとは思いますが、今度は連携を図るということになると、お互いの共通点を生かした、相乗効果を狙った戦略というものを検討してはいかがでしょうか。

朝日町と糸魚川市、上越市と糸魚川市、小谷村と糸魚川市、それぞれにおいて、この共通点を生かしたらというものを皆さんでも考えてみてください。いかがでしょうか。また何やらクイズのようで恐縮ですが、私なりに思いつくものを挙げてみますと、朝日町とは、ヒスイ海岸やバタバタ茶で共通があります。上越市とは桜つながりで、高田公園の桜と徳合のしだれ桜、また、奴奈川姫神話つながりで奴奈川神社と居多神社、あるいは雁木の町並みと城下町と、そういった共通点があります。小谷村とは山岳観光、塩の道つながり、大糸線つながり、あるいはキノコや山菜加工品などなどありますね。

新幹線の開業をターゲットにした今こそ、そういったお互いの共通点をうまく使っていくという戦略をつくる。そして糸魚川を中心に車輪の構造のような観光都市連携をつくること、このことが求められているように思います。糸魚川市が車輪のこの中心、ハブとなって、そこから枝が出る。それぞれの地域、新幹線で真ん中の糸魚川に入ってくる、周りを回ってまた出ていく、そういう仕組みづくりを早くつくっていただきたい。で、それを誰がやる、その音頭を誰がとる、これは当然、糸魚川市だろうと私は考えますが、このことについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長(米田 徹君)

お答えいたします。

やはり議員ご指摘のとおりと私も捉えるわけでありますが、しかし、今最近の交流人口拡大、観光の点につきましては非常に奥深い、そしてまた非常にレベルが高く感じるわけでありまして、押しなべて一体的にやらなくちゃいけないというのは、当然、基本的なんだと思うんですが、やはりそのレベル等もあるわけでありまして、あんまり大きいものと小さいものを一体としても埋没してしまう部分がございます。そのような中で、目的別というのは当然だと思っておりますが、そういう1つの目的を持ちながら、そしてお互いにやっぱりそのレベルを上げながらいかなくちゃいけないわけでありまして、そういったところも非常に大切でありまして、ただ一体感を持って、連携をもってやるというのは当然なんです、そういうところを考えると、そう一朝一夕にはなかなかいかないところもあるわけでありまして、今、そういったところで、一体でもってやれるところはやっていける。

今言ったように知音都市交流は、一体感を持った取り組みができるわけでありまして、そういったところは取り組めるわけでありまして、またいろいろ今ご指摘いただいたそのものについては、なかなか温度差というか対処、非常に違いがございますので、そういったところの一体感とい

うのは、なかなか難しいかなとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長はまちのトップですから、レベルの高いところにあります。それと、まちとまちとの壁というものもお感じになるでしょう。しかし、市民というのは自由に行き来するんですよね。

私は今年の春に、徳合のしだれ桜を見て歩くというハイキングというイベントに参加しました。そこで上越市のある女性の方数名と知り合いになってお話をしたんですが、高田の桜はすばらしいと。しかし、すぐ隣に、こんないいところがあるんですね、とってもいいですよと、知らなかったと。これからは仲よくして高田にも来てもらいたい、そして来年のしだれ桜は、また来ますというお話をいただくわけです。そういったことから隣同士が仲よくなるということは、いくらでもできると思いますし、そういったことでの一体感が今後出ていくと、糸魚川がまさに、翠の交流都市ということの役割を全体の中で担っていくのではないのかなと、このように考えますので、よろしく願いいたします。

では、新幹線の開業をターゲットにした首都圏、関西圏との連携はどうなっているか、交流事業をこれからどうつくり発展させるか、この機会にご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

交流事業の展開でありますけど、正直なところ、まだまだ糸魚川は知名度が低いというふうに思います。そのためにも特にことは、去年にあわせまして、糸魚川の知名度のアップのために、いろんな宣伝媒体を使ってPRをさせていただきました。すぐやれるバスツアー等も、ことは少し広範に展開してきたつもりであります。また今後、新幹線開業にあわせてJR商品の展開というのは、かなりウエートが大きくなってくるのではないかなというふうに思ってます。

既に関東の商談会等は県を經由しまして数回、ことし実施しております。また関西も初めて、ことしチャレンジすることができました。少しどこかをキーポイントとして、交流の糸口を探したいつもりで積極的に各種商談会、並びに関係団体との交流をしっかりと保つようにやっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

どんどん進めてまいりましょう。

さて、私たち会派、糸魚川21クラブでは、この3年間、東京首都圏の特定のエリアの方々と、将来的には都市交流となることを視野に入れた人的交流を行ってきました。その1つは、東京都北区で、北区議会議員の皆さんや、都内で有名な商店街、霜降銀座商店街の皆さん、そして農村体験

交流で毎年おいでいただいている聖学院中学の先生方、これは伊井澤議員が生徒さんの受け入れ農家であったことによりますけども、そういった人的交流を始めています。

これまでも聖学院中学さんの学園祭で、JAひすいさんと、糸魚川の農家さんと、糸魚川市担当課が製品の販売をさせていただいていますが、この学校つながりを発展し、拡大していく取り組みとなるように、糸魚川の若手商店主の会が中心となって、まがたまの会というものをつくり、若手農家さん、魚市場さん、青年会議所の皆さんに声掛けして、アンコウのつるし切りとアンコウ汁の販売を行い、東京の商店街のにぎわいづくりのお手伝いの中で、糸魚川の情報発信、アピールに努めていただいています。

もう1つは東京都墨田区で、人気の東京スカイツリーの建設地が墨田区押上ということから、糸魚川市の押上区長さんと、押上・押上つながりをつくっていただこうと、墨田区押上に住まれている区議会議員に仲立ちをお願いしたところ、墨田区押上のまちづくり研究会の皆さんをご紹介いただき、押上・押上つながりが進みつつあるということです。ひょっとすると4月のけんか祭りに、墨田区押上のまちづくり研究会の皆さんがお見えになるとも聞いています。そうであれば、押上海岸でヒスイ拾いを体験していただいたり、酒蔵を見学していただいたり、おいしい魚を食べていただいたり、糸魚川のよさを感じていただけたらと思います。

さて、先ほど事例としてご紹介しました北区の霜降銀座商店街との交流イベントには、昨年、当市で進めるなりわいネットワークの皆さんや、担当課さんもお参加いただいておりますので、この機会に、これからの首都圏とのつながりづくりということで、その事業展開についてお話をいただければと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員のほうから、民間レベルでのいろんな交流事業をご紹介いただきましたし、後段のほうでお話がありましたように、昨年、糸魚川市で立ち上げましたなりわいネットワークも、霜降商店街のアンコウのつるし切りのほうに参加をさせていただきました。私も出席をさせていただきました。非常に都会に出て物を売ることの大変さを痛感してまいりました。厳しさを感じてまいりました。

それと、あわせて得るものもたくさんございました。1つには、霜降商店街といいながらも、やはり空き店舗があるわけでもございまして、そこをいかに今後の地方の物産を売る場所として、使えるのかなというふうなことも感じさせていただきましたし、それから、糸魚川の物を持って一緒に売りに行ったわけですけども、行った方々のやはり熱意を非常に感じました。行き帰りの車中での意見交換をしながら熱意を感じ、今後の事業展開に利用できるものを、たくさんいただいてまいりました。

やはりヒントは、現場にあるんだろうなということを感じてまいりました。今後、そのような素材をしっかりと、なりわいの展開に結びつけていきたいなというふうを考えております。

少しなりわいネットワークの事業展開をご報告申し上げますけども、今、会員につきましては、個人、団体を含めて45団体、加入をいただいております。昨年10月には、東京ビックサイトの

ほうへ行きまして、見本市等を見学させていただきましたり、また、あるいは若手の農業者の皆さんが、六本木のアークヒルズで交流をしたりというふうなところにも参加をさせていただきました。それから、今、議員のほうでお話いただきました霜降商店街のほうへ出向きまして、物産を売ることも取り組まさせていただきました。

また、本年の2月21日からは、関西のほうへ出向きまして、アグリフード大阪2013、あるいはシーフードショー大阪などにも参加をさせていただきました。なりわいの皆さんから出たいて、非常によかったと、得るものがあったというふうに聞いておるところでございますので、その得るものを今後どのように結びつけていくかというところ、しっかりと、なりわいの皆さんと話し合っていきたいなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

ありがとうございました。

かつて糸魚川21クラブが市外へ出かけて政務調査し、その報告として提言したことが、このような形で実現しているということに関して感謝を申し上げます。

では、スカイツリーの墨田区押上との押上つながりについては、何か期待できるものはあるでしょうか。お考えがあれば伺いたいと思います。

糸魚川の押上区では、この交流を使って定住人口につなげたいという構想をお持ちとも聞いております。行政として、その交流にどのような支援をお考えいただけるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にありがたい活動だと思っております。ただやみくもに都会から人を呼ぶということだけで展開というのは、なかなかうまくいかないものだと思っております。やはり1つの人と人とのつながり、地域と地域のつながり、そういったところをだんだんと、やっぱりパイプ太くしていくことが、大きくまち全体としてのつながりになるんだろうと思っております。ただ、そういったことを考えますと、今始まったばかりだろうということでございまして、いろんな面で行政も協力するところがあれば、支援をしていきたいと思っております。ただ最初から皆さんがやっとなら行政が入っていくというのはいかがかな、協力できるものは何か。恐らく向こうの行政も、そうだろうと思うわけですが、そういう中で行政が出ていいときには、行政が出ればいいと思うわけでございますので、まずは皆様方がつながって、本当にしんからの有効を図っていくように、我々も支援していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番(田原 実君)

市長、よろしくお願ひします。

新幹線が開業すれば、糸魚川に大勢の人がやってくる、やってくるはずですが、それを待つだけでなく、今から首都圏において新幹線で糸魚川に行きたい人をつくること、非常に重要なことではないか。行政は行政として、市民は市民として、議員は議員として、新幹線の開業に向けて糸魚川に来てもらおうつながりづくりを進めましょうということ、ここでお願いいたします。

では、北陸本線全線開通100年、そして相馬御風先生生誕130年の節目の年の対応について伺います。

昨年は糸魚川駅開業100年、大糸線全線開通55周年の事業が行われましたが、その反省があればその点も含め、北陸本線全線開通100年について、ことしはどのような展開になるのか、明るい話題を提供していただければと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

まず、今年度の駅開業100周年、大糸線開通55周年の記念事業についてであります。これは去る2月21日に実行委員会を開催しまして、これは節目の実行委員会でございますが、意見交換等を行ったところであります。全般的には多くの皆様に参加いただき、また、盛り上げていただいたことから、一定の成果があったということではありましたが、ただ、より一層の市民への周知や参加の広がり、それから新幹線開業へのアピールが、より一層必要というふうに捉えております。

また、次に北陸本線全線開通100周年であります。これも昨日28日に、北陸新幹線糸魚川駅開業記念事業実行委員会を立ち上げ、会議を行ったところであります。この実行委員会の中で、あわせて開通100周年のイベント等を行う予定としております。中身は、この実行委員会の中で詰めていくこととしておりますが、今のところの予定というか構想では、これは24年のほどの規模ではありませんが、鉄道を利用した鉄道祭り、それから糸魚川駅、橋上駅が完成しますので、その完成イベントや、また、24年でラッピングしましたキハ120を使いまして、これはJRとも当然タイアップしていかなければなりません。南小谷から、例えば能生や親不知へのカニツアー列車というようなものを含めて展開していきたいと。それからJRのデスティネーションキャンペーンも、これは26年が本番ですが、プレもありますので、この辺を、どうこの北陸本線に活用できるかというふうなことも考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田原議員。

14番(田原 実君)

事前審査になると言われると困るんですけど、今の計画によってどのくらいの誘客、糸魚川に呼び込むか、目標を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今のところ私が申し上げたのは構想でありまして、その事業効果、人数というのは、今のところまだ持ち合わせておりませんが、昨年、鉄道祭りあたりは1万人の効果もありましたし、それぞれいろんな記念事業を展開してる中では、その事業によって何十人規模から100人単位の規模というのがありましたので、その事業を練っていく中で、その辺も含めて詰めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

では、相馬御風先生生誕130年について、これは知音都市交流にとっても積極的に生かすべき年度と思いますが、いかがですか。早稲田の校歌の作詞者である相馬御風先生の生誕地として、糸魚川市の取り組みには大いに期待しているのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

知音都市交流につきましては、ことしは総会が糸魚川市でやられるということで、相馬御風の生誕の130年とも重なるわけでありまして、市では今現在、先ほど市長が申し上げましたように、相馬御風の顕彰としては日報社の協力をいただいて、日報社のホームページも活用して、県内外に相馬御風の顕彰の情報を発信してまいりたいというふうに思っておりますし、今まで相馬御風の宛書簡、そういう書簡集をつくっておりますので、平成25年、26年にかけて、今度は御風が出した書簡集も出す予定にしております。そういうものも含めて企画展を開催をいたしまして、知音都市交流の中でも交流人口の拡大に、そういうものも活用してもらいたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

これもやはり交流都市ですから、どのくらいのお客さんに来てもらうかというやっぱり目標をつくるくらい、きめ細やかな戦略というものもあわせて持っていただきたいと思っております。

いずれにしても糸魚川に人が来る、相馬御風先生のことを知りたくて糸魚川に来るということですが、大町区にある相馬御風生家の管理について、ここで伺いたいと思っております。

先日、糸魚川を代表する文化人、有名人の生家というふれ込みで、私の親戚の大学生を誘ったところ、見たいと関心を持ってくれたので行くと鍵がかかっていました。とても残念でした。私も近所なので、よく前を通りますが、鍵がかかって入れない御風生家の前で、看板だけ眺めている観光客とおぼしき人を、これまでに何人も見えています。その人たちは糸魚川に対して、どんな印象を持ったのでしょうか。

以前には、観光文化都市を掲げていた糸魚川市、今は翠の交流都市の対応としてはいかがなものかと思いますが、実情はどうなっていますか。また、この状況は、いつまでに改善されるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

実情は、11月の半ばから4月の半ばまで冬の間は閉館ということで、ご予約をいただいて、案内看板の電話番号によって歴史民俗資料館、または文化振興課のほうに電話をいただいて開館するというようなことになっております。

これまでご親戚の方が近くにおられましたので開館をしておったわけでありまして、非常にある意味では、おもてなしということでは、常時開館ができればいいわけでありまして、今後、観光協会の案内所もありますので、そういうものも活用したり他の人員体制も含めて、再検討したいというふうに思っております。

時期につきましては、大体ゴールデンウィークから11月までは開館を常時しておりますので、その後、どういう体制でやるかというものも含めて、早急に考えて対応してまいりたいというふうに思っておりますので、4月からすぐというわけではなくて、11月の後半からそういう閉館の中で、おもてなしの対応が迅速にできるような体制を整えてまいりたいというように、現在は今考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

おもてなしの対応といかなくても、とにかく関心を持って行ってみたら鍵がかかっていたと、それをどう解決するかということをお願いしたいんですけどね、あしたからでもお願いしたいと思います。

では、質問の2、里山のにぎわいづくり、街なかのにぎわいづくりについてです。

市長から1回目の答弁で認識を伺いました。私はそれで納得をいたしました。

それで2回目の質問で伺っていききたいんですけども、糸魚川の地域資源ということで、里山だ、街なかだということを書いておられますけれども、そういうことが魅力としてあるということ、ここに住んでいる私たち自身が、まず気づいているかということなんですよ。それはどうお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そこに住んでおる人たちというのは、もう自分の生活の中での一部であるわけでありまして、なかなかそれが非常に文化的に見たり、自然の価値としてなかなか判断しかねるところがあるのではなからうかと思うわけでございまして、そういったところは、やはりいろんな活動の中でお示しをして、ご理解いただくということが大切だろうと思っております。

押しなべて、やはりジオパークで、今、自然を情報発信してるんですが、行ってみて気がついた、説明してわかったというような状況が続いているところから判断しますと、今、議員ご指摘のように市民の皆様方というのは、なかなかそういった他と比べて非常にレベルの高いものだというお気持ちには、なかなかないのが実情だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

私も一度この地を離れ、戻ってきて住んで、都会と糸魚川を比べてわかったことですが、大都市近郊の地方都市では都市化が進んでなくなってしまったもの、そのまちの時代を刻んできた歴史を感じるもの、昔の生活をほうふつとさせるものが糸魚川には見事に残っている。しかも、いろいろ残っていて、実際に使われている貴重なまちであるということです。ただ、その多くは新しい時代の価値観に合わないよう考えられがちで、魅力あるものとして理解されにくいことも事実であります。

そして、そこに人が住まなくなれば、やがてはなくなってしまうのかもしれませんが。残るものは残るし、残れないものは消える、それが世の中の定めといえはそうかもしれない。ただ、今せっかくあるものを、いかに生かしてまちづくりをするか、そこに知恵を使うということも永遠の課題として引き継がれていくべきと思います。

そこで、今回の質問において提言したいことは、にぎわいづくりのチームというものを市民と一緒にしっかりとつくってみてはどうかと、その必要性があるのではないかとということです。

例えば質問項目に上げました3つ、里山、街なかに子どもや若者を呼び込む新しい取り組みについて、里山、街なかに都会の中老年世代を呼び込む新しい取り組みについて、里山、街なかの食文化を生かしたまちの元気づくりについて、それぞれのテーマに応じたアイデアをみずから考え、事業を実行していく、そういったチームというものを想像していただければよろしいと思います。

そのワーキンググループが糸魚川市内の地域を元気にする、参加者は地域外部の若い市民、新潟大学の地域づくりを学ぶ学生さん、都会に住みながら糸魚川市にとっても関心のある方にも参加してもらいたいと思います。地域の元気づくりのお手伝いをしていただくという発想ではありますが、市長、行政の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今ほどのご提言の内容につきましては、まさに今、行政が取り組みをしているところであります。少子化、高齢化、さらには過疎化の進む地域に、何とか元気を取り戻したいという思いで、23年度から地域に入って地域づくりビジョンをまとめ、今年度からは地域づくりプランの取り組みが始まっているところであります。

確かに地域の置かれている現状、状況というのは、それぞれの地域で異なっておりますけれども、その地域に合ったやり方で課題を見つけながら、課題解決をしていくということであり、これに行政も人的、あるいはまた資金面でも、応援体制がとれているというふうに思っております。

また、後段でご質問の外部人材につきましては、やはり有効なものだろうというふうに考えますので、必要によっては今、小滝地区で、新潟大学の学生によるダブルホームも23年度から始まっておりますけれども、能生地域の上南におきましては、ファシリテーターとして外部人材からもご協力いただいて、まちづくりに取り組みをしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

行政の考えを伺いました。

私が今回こだわったのは、いかにして新しいパワーを糸魚川というまちの中に生み出すかということでした。若い人たちも、元若い人たちも頑張ってくれています。各地の青年団体、青年会議所、うまいもん会、あんこう祭りの会、エキマエニカモン、街なかスイーツ巡りなどいろんな会の皆さんが、糸魚川のにぎわいと元気をつくるために頑張り、まちづくりサポーターズという団体はシンクタンクとなって事業も実行してくれております。

中でも高齢化の著しい小滝地区の皆さんの頑張りには目をみはるものがあり、ご当地への入り込み客増大に結びつく事業に取り組んでいただいております。そう思えば糸魚川という地域は、すばらしいまちだと思います。ただ、そういったことを目指してみても、諦めざるを得ない状況にある地域、地区に対して、どう光を当てていくのかということも重要な課題であります。私はそういった地域、地区にもにぎわいと元気をつくっていききたい。そこに暮らす喜びとか誇りとか、そこに生きる意味というものを感じていただきたい、このように常に考え、行動してまいりました。

ただ、市議会議員という立場にあるために、おのずと壁もできてしまいます。できてしまいますが、そこを越えて市内のどこへでも出かけて、皆さんのお役に立ちたいと声を聞いてまいりました。そのことは議員であろうがなかろうが、私たちのような責任世代の市民に課せられた役割とも考えております。ですから、そういった志を持っている人と出会うと本当に元気をいただきます。そんな人がふえてくれればいいなと思います。

そこで、にぎわいまちづくりコーディネーターの育成の話になるわけですが、今行政で取り組む人づくりの事業、人材育成事業の中で、そのようなことがあれば教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

にぎわいづくり、非常に大切なことをございまして、我々は今までいろんな事業をやっているのも、やはりそれを目指しておると捉えておるわけであります。しかしながら、いろいろな事業に取り組んだり、いろいろな人たちが今かかわってきておりますが、遅々として具体的に、なかなか見えてないのも実情であるわけであります。

そのような中で、我々はじゃあ何を、どうすればいいのかということところで、今進める中においては、やはりそこに住んでおる人たち、また、そこに立場を置く人たちの気持ちと、少しずれる部分があるのではないかと。そしてその人たちの考えを十分に尊重しながら、そこにいる人たちがどう考えるかという、そしてその中で、それをいかにメリットもあるのかということところを、やはりしっかりしなくていけないだろう。まだその地域が固まらないうちには、よそから来ているんなことをしても、なかなか成功しないのではないかと、長く続かないのではないかとというような考えから、地域プランというもので、地域の人たちは皆さん、一度はやはりどのようにお考えになるのか、また、どのような思いをしているのかということところをまとめていただいて、そしてその課題を中心にしながら、解決しながら、そしてにぎわいづくりをしていかななくてはいけないという考え方で、今進めさせていただいております。

でありますから、その地域によっては、違ったまた考え方が出てくるかもしれませんが、我々として、そういったところを尊重しながら、いつも私が言いますが、チーム系魚川で、みんなで頑張っていればよいと思ってる次第でありまして、今進めてる点についての具体的な点については、担当からも話をさせていただきますが、やはりそういった我々のこの厳しい自然環境の中で、どのようにしていくかということところも含めるわけでございますが、そういったところで今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長のおっしゃるとおりです。やはりその基本を踏まないとうまくいかないというか、失敗してしまうということを私も見聞きしております。

ただ、この先を考えれば、やはり里山であれ、街なかであれ、地域に若い人や子どもたちがいてくれるだけでも元気が出るわけですから、そういう若い人、子ども、そういった人たちの姿や声が聞こえるということ、何とかつくり出していく仕組みというものも必要だと思っております。

そこで一石を投ずるというようなことでチャレンジしていただきたいことは、私、今回、住む人をふやすための嫁取り、婿取り婚活サポート事業などというふうにな名前をつけてみましたけど、要は、普通結婚相手の家に入ることを嫁取り、婿取りと言いますが、ここはその地域に、若いカップルが入って住んでもらうということがイメージとしてあります。何か、こういうような取り組みというのは今あるのか。もしあれば教えていただきたいと思っておりますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

今、議員ご質問の具体的な例としては、今現在では持ち合わせておりませんが、やはり先ほど少し触れました外部人材から糸魚川に入っていただく、呼び込むといいでしょうか、そういう活動を通じた延長線で、結果、定住人口につながるという考えも現在持ち合わせておりますけれども、まだ具体的になっておりませんので、ここでの説明はできませんけれども、今後、その点については、地域おこし協力隊等の事業の中で、考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

私からの提案としては、街なかであれ、里山であれ、空き家となっている古民家をすてきに修繕して、無料か、それに近い低額の家賃で住んでもらうことを行政が支援すると、そういう仕組みはできないかと。そのかわりと言っては何ですけど、若い住民からは日々の暮らしぶりや、住んでみてわかった地域のすばらしい点をインターネットで配信してもらうことが、糸魚川の情報発信となります。そんな取り組みを思いついてみましたが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

今ほど私のほうで地域おこし協力隊の話をしていただきましたけれども、この内容は、まさに今、議員の提言のある事業の内容だというふうに思っています。特に東京を中心とした首都圏から、若い男性であったり女性であったり当市に来ていただいて、できれば今空いている空き家等に住んでいただいて、地域にも応援していただく、あるいは、また地域でのイベントを企画していただくというような協力を、いただきたいことを考えております。そうすることで、もちろん国の支援のある期間というのは一定の期間でありますけれども、その後、糸魚川に定住していただく、仕事を見つけていただく、さらに結婚していただくという流れができることで、今ほどのご提言の内容にも、やはり沿っていくものになるのではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

質問の3、能生国保診療所を核とする健康集落づくりについては、健康増進課、能生事務所、それぞれより見解を伺いたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

お答えします。

市長の答弁にもございましたように、能生地域では各地区公民館、団体が一体となって、地域づくりの方向性を健康と福祉として、健康で孫と一緒に住めるまちを目指し、新潟県立看護大学と連携した取り組みが、現在、自主的に行われておりますし、国保診療所の鬼頭先生も地元での活動にも積極的に参加しておりますので、能生地域での健康への取り組みの中で、地域の医療拠点として連携できるかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

今、健康増進課長のほうから話がありましたように、能生地域の各種団体に組織します能生地域活性化協議会というものが、健康で孫と一緒に住めるまちということを目指し、県立看護大学の渡邊学長等から講演をいただいておりますし、昨年でありますけど、能生地区と西飛山地区では看護大学の学生を受け入れて、地域学習の受け入れを行っています。

この考えの中心となる地域が、国保診療所と、おおさわの里のあるところでありまして、県立看護大との連携した取り組みは、昨年、緒についたばかりでありますので、この取り組みが地域の皆様に理解していただくことが課題でありますし、ご提言いただいたことにつながるためにも、そこから入っていかなきゃ悪いんじゃないかというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

終わります。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

田原議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を11時25分といたします。

午前11時15分 休憩

午前11時25分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて一般質問を行いますので、よろしくお願いいたします。

1、原子力防災と放射性物質を含む汚泥について伺います。

(1) 原子力安全協定について。

糸魚川市を含む県内28市町村は、東京電力とこれまでの原子力通報連絡協定を発展的に解消し、新たに安全協定を締結しました。

この安全協定の締結により原子力防災が一步進んだことになると思いますが、具体的にどのように変わったのか伺います。

安全協定締結の目的について。

県や他の市町村との連携について。

庁内対応について。

避難計画について。

県外原発への対応について。

(2) 放射性物質を含む汚泥処理について伺います。

市内に搬入後の汚泥管理と放射能測定について。

他の事業体の搬入予定について。

2、北陸新幹線開業と並行在来線等について伺います。

北陸新幹線開業に向け新幹線と並行在来線の利用促進策について伺います。

(1) 北陸本線全線開通100周年記念事業の取り組みについて。

隣接自治体との連携について。

並行在来線会社との連携について。

JRのDC（デスティネーションキャンペーン）への取り組みについて。

(2) 情報通信技術（ICT）の活用と環境整備について伺います。

観光客への情報提供の取り組みについて。

公衆無線LANの整備について。

(3) 並行在来線等について。

国の支援の内容について。

新駅について。

開業までに整備が必要な既存施設について。

大糸線に新設された雪崩防止柵の効果と今後の設置予定について。

3、中山間地域振興と農業について伺います。

(1) 中山間地域の公益的機能の評価について。

中山間地域が有する公益的機能（水や食料の供給、国土の保全、景観、歴史・文化、環境等）の重要性が見直され、その評価も行われています。平成14年に行われた新潟県の試算では、1年当たり森林2兆9,352億円、農業については4,488億円との評価額が示されています。

上越市でも同様の評価が行われ、今年1月公表の試算では1年で森林1,725億円、農地186億円と示されました。

糸魚川市での中山間地域の公益的機能の評価の取り組みについて。

田んぼダムの取り組みについて。

(2) 農業のICT化について。

この度、経済産業省主催の優れたICT経営を実現している中小企業などを表彰する「中小企業IT経営力大賞」に新発田市の農場が選ばれるなど農業のICT化が注目されています。

就農者の高齢化・後継者不足に伴う農家人口の減少対策として若い担い手育成にICTを取り入れ、会計・販売から生産・管理までICT活用が増えています。データ収集・ネットワーク活用で労力の省力化、品質向上に役立っています。

新規就農者拡大・事業の活性化に必要性が増し積極的導入の動きも聞かれますが、糸魚川市では意欲ある農業者に支援の考えはありますか。

(3) 原油高によるハウスの管理費用が農家の経営を圧迫しています。為替の影響を受けず、森林整備にもつながるペレット導入の支援を求める声を聞きますがいかがでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、市民の安全と安心を確保するために原子力発電所からの情報を共有し、県内市町村が足並みをそろえて対応することを目的といたしております。

2つ目につきましては、この協定に基づいて原子力発電所、新潟県、市町村による原子力発電所連絡会を立ち上げ、定期的な会議など安全対策に取り組むといたしております。

3つ目につきましては、防災室が原子力発電所連絡会等の窓口となり、庁内での情報共有や連携を図ることといたしております。

4つ目につきましては、市町村研究会で作成した実効性のある避難計画に基づき、市外からの避難者受け入れも含めた県内全域が連携・連動した広域的な避難計画を作成中であります。

5つ目につきましては、引き続き立地県の情報を収集しながら新潟県と連携し、災害情報の共有や広域的な避難等について調整を進めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、搬入後は直ちにセメント原料として使用し、直ちに使用できない場合は、倉庫で一時保管していくといたしております。放射能測定については、市内セメント会社2社による測定のほか、市といたしましても搬入時の車両や周辺の空間線量を測定いたしており

ます。

2つ目につきましては、具体的な依頼は来ておりません。

2番目の1点目の1つ目と2つ目につきましては、JR西日本や富山県側との連携はもとより、大糸線とも連携を図るとともに、えちごトキめき鉄道にも働きかをしてまいります。

3つ目につきましては、26年度を中心に開催される新潟デスティネーションキャンペーンでは、県関係団体及び市観光協会やJRと連携をいたしまして、観光誘客に積極的に取り組んでまいります。

2点目につきましては、観光客に対する携帯電話等のアプリケーションの提供に取り組むとともに、Wi-Fi環境につきましても、順次、スポットを整備していく予定であります。

3点目の1つ目につきましては、貨物調整金、貨物経路確保、豪雪対策支援、安全輸送設備補助、建設費負担軽減を内容とするものであります。

2つ目につきましては、利用見込み、費用対効果等を踏まえた上で、必要性を考えてまいります。

3つ目につきましては、えちごトキめき鉄道による運行が円滑にスタートできるよう、JRが譲渡前に必要な既存鉄道施設の整備を実施する予定といたしております。

4つ目につきましては、かさ上げした雪崩柵の効果は発揮されております。また、今のところ新たな雪崩柵の設置は予定してないと聞いております。

3番目の1点目の1つ目といたしましては、市として取り組む予定はございません。

2つ目につきましては、畦畔の保全、中干し等に課題があることと、農家にとってメリットが少ないことから、取り組む予定はございません。

2点目につきましては、生産性の向上や品質の改善、新規就農者や新規参入法人への経営ノウハウの提供など効果があるものと考えております。今後とも先進事例を調査研究し、農業者への情報提供や相談などの支援を行ってまいります。

3点目につきましては、県と市の補助事業等がありますことから、ご相談いただきたいと思っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、再質問をお願いいたします。

安全協定が結ばれたということで、今伺ったところなんですけれども、まず、柏崎刈羽原発では、これまでどのような事故といいたいでしょうか、トラブルが発生しているもののでしょうか。思い出されるのは中越沖地震のときに、火災事故が発生して問題になりましたけれども、そのほかにも重要なトラブル等が把握されていたらお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃったような事故につきましては、もう皆さんご存じの事故だと思っております。その後につきましても、例えば働いている方が指を切断したとか、いろんな小さな事故が発生しております。そのたびごとに関係市町村には、細かい事故の詳細が通報されてきて、我々も確認しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

細かい事故のことは、人的なそういったことは問題はなかるうかと思えますけれども、私もネット等でちょっと調べましたところ、2009年には予備品の倉庫火災があったとか、あるいは2006年には計画線量超えがあったとか、そういったものが情報として流れていました。中越沖地震以後、この2009年までには、火災発生は9件あったということも書いてありました。真偽のほどは、ちょっと私、よく確認はできませんが、印象として、結構頻発してあるなというふうに受けとめております。

例として、先日も栃木県の地震、震度5強があったりしますと、すぐに原発は大丈夫かなというふうに思うわけですが、このような事態が発生したとき、この安全協定に基づいて、具体的にどのような行動が起こされるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

協定に基づく中身につきましては、ポイント的に3つ実はございます。1つが、平常時の対応でございます。これにつきましては、先ほど申し上げましたみたいに、発電所の安全連絡会というようなものを設けておまして、定期的に会議を開催して、安全に関係する情報を共有するというのが1つのポイントでございます。

もうあとは1つは、異常時の対応ということでございます。これにつきましては、異常時につきましては、東京電力から通報連絡が当然あることになっておまして、また、あった中身につきましては、基本的には30キロ圏内の市町村が、現場確認を行うというようなことが取り決めされております。

最後の3つ目ではありますが、これが損害賠償補償の件でありまして、原発の運転事故に絡みまして住民に損害を与えた場合には誠意を持って補償する、これが大きな3つのポイントとなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

わかりました。

原発再稼働の話が、今取り沙汰されております。国の話になってくるんですけども、原子力規制委員会の新しい安全基準、直下に活断層の可能性云々の話が、今、安全性について論議されているところですけど、市ではこの再稼働については、どのように考えているのか。安全協定のほうでは意見交換の形で、稼働について意見を伝えることができるというふうに書いてあるというふうに見たんですけども、その点についてはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長(小林 強君)

再稼働についての安全基準の考え方につきましては、これは当然、原子力規制委員会が判断するものというふうに考えておまして、市町村レベルでは、そのような判断に関する能力は、持ち得ていないというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

それはわかるんですけども、先ほどこの安全協定の中で、意見交換の形で意見を述べるができるというふうにあるが、そのことについてはどうなのか。そういったときには、市としてはどのような対応をとろうと考えているのか、そういった点を伺いたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長(小林 強君)

意見の交換会につきましては、基本的には市民の安全・安心を守るために、その会が設立されるわけですので、市民の安全・安心に危機が及ぶという判断であれば、当然、その場所で糸魚川市は、糸魚川市としての意見を申し上げるということになるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

庁内対応ですけども、市によっては原子力防災対策室等を設けている市もあります。糸魚川市は50キロ圏外になるわけですけども、そういったこともあって、そこまでは必要ないという判断があろうかと思えますけれども、今後でも、専門的なスタッフの育成とか、あるいは所管の窓口等について再編していったりとか、そういう考えというものはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

糸魚川市の防災対策全てにつきまして、消防本部防災室が対応するということになっておりますので、その考え方につきましては、現状では変更ございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

あわせて専門スタッフ等の育成ということ、あるいは、そのためのやっぱり専門的な知識の習得等をどのようにされていくか、あるいは考え、そういったことについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

防災室の職員につきましては、各種の研修会等に参加をさせていただきまして、知見を深めるように努めているところであります。

ただ、原子力の安全性について専門的な知見を持った職員を育てるかどうかということにつきましては、その辺は現実の話からして非常に難しいというふうに考えておりまして、やはり大学の専門家との連携だとか、やはり国の関係機関との連携によって、その辺を埋めていく必要があるのではないかというふうに現状では考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

避難計画についてでありますけれども、先ほど策定中という答弁をいただきましたが、原子力トラブルの最大発生原因というのは人為的なミスから、地震あるいは津波といった自然災害、いろいろ考えられるわけでございます。また、それらの複合の災害ということも考えられますけれども、そういったことを全部想定しての避難計画というものが、実効のある避難計画かなと。避難されている人も含めての避難計画が必要なわけなんですけど、この策定はいつごろまでに、どのような工程を経てやっていくのか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

この避難計画につきましては再三申し上げておりますが、市町村による検討委員会を立ち上げて検討しているというようなお話を、今まで皆様に申し上げてきたかと思っております。それが一応

まとめられておりまして、実効性のある避難計画という形でまとめられております。

それを大きく3つにポイントが絞られておりまして、まず1点目は、5キロ圏につきましては、もう即時避難だと、それから5キロから30キロ圏については段階的避難というのが、第1のポイントでございます。それから第2のポイントとして、避難計画をとりあえず危機を脱することを主な目的として定め、1次避難と、それから長期の避難、2次避難と区別して、1次避難をまず重視したというのが、2つ目のポイントでございます。それから3つ目のポイントといたしまして、5キロから30キロ圏内においては、一定期間の屋内待避を前提として、時間をかけた計画的避難を行う、これが基本的な3つの考え方です。

その3つの考え方を基本といたしまして、それぞれ原発との距離に応じて、その市町村に合った具体的な避難計画及び避難者を受け入れるための計画を、今策定に向けて進めているということでございます。我々とすれば、できれば25年度中に、何とか策定できればというふうな計画で、今進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

両原発というのは、県外の志賀原発も含めてなんですけども、柏崎刈羽両原発から一番近いところで約50キロ、また80キロ、海岸線にある市振地区とか磯部地区とか、そういったところもありまして、きょうの答弁もそうですけれども、これまでの答弁でも、この地域は50キロ圏外で、即避難は、現実的にはないだろうということで話は聞いていますし、基本的な話はわかりました。

やはり風向きとか風力とかによっては、すぐに避難しなければいけない内容もありますし、海岸線という特殊な地域も考慮した、この地域に合った避難計画というものを、早目に立てていただきたいなと思います。

その実効性を上げるには、住民意識の向上というものもあわせて必要かと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

防災計画につきましては、全て住民の皆さんのご理解、ご協力がないと、その実施は危ぶまれるものでございます。具体的には25年度を目標に、今、原発以外の地域防災計画の見直しも進めているところでありまして、その中で住民の皆様方に具体的にご説明をし、理解を得て、また訓練等を重ねることで、実効性を高めていきたいというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。県外原発への対応も含めて、しっかりとお願いしたいと思います。

次、放射性物質を含む汚泥処理についてですが、1月9日ですか、最初に搬入された、それ以降の汚泥の量と放射能の総量について、把握されていればお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

電気化学工業株式会社では421トン、それから明星セメント株式会社では1,265トン、合わせまして1,686トンが搬入されております。

また、放射能量につきましては、電気化学工業株式会社については16から77ベクレルと、それから明星セメント株式会社では26から58ベクレルということで、全体的な量というのは出しておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これまで合わせて1,686トンの汚泥が、平均して16から56ベクレルのものが搬入されたということになるかと思えます。IAEAの放射能管理の原則がありますが、封じ込めと拡散の防止の観点からいうと、これだけの量が拡散してるんじゃないかというふうに思うわけですが、その辺の認識というものは、どのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

基本的には、食品基準の100ベクレル以下ということでございますので、安全性はあるということでございますし、拡散ということには、つながらないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

拡散につながらないという答弁ですけども、私はこれはしっかり拡散してるんじゃないかと思えます。わかりました。市の見解としては、そういったことがわかりました。

この1月9日以降なんですけども、1つの事業所のほうでは2月はほとんど途絶えている、搬入されてない時期がありますけれども、これの理由は、地域審議会等でも少し話されていましたが、調整のためというふうに話をされていましたが、改めてこの理由と、その調整の意味をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

新潟市が処理をしようとするものについてでございますけども、新潟市では直近に発生したのから処理をしたいということから、それが効率的であるものですから、それからやるということでございますけども、降雪等の関係から新しいものについては、若干従来のものよりもやわらかくなったということで、電気化学工業の作業工程上、少しそのものについては困難があるということから、機械脱水等のものに切りかえるということで、その間の処理工程の調整に時間を要してるといってございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

放射線量の測定ですけれども、いろいろと公表されていることはいるんですが、この時間帯については一定の時刻なんでしょうか。また、夜間等の測定というものは、考えてはいないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

市が行っている周辺の空間線量につきましては、午後から行っております。大体3時間ぐらいかけて行っているということでございます。また、夜間につきましては、会社等の操業そのものが昼間ということもありますので、夜間については今のところやる考えはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

夜間はやるつもりはないと。でも、操業は夜間はやっているわけですよね。そういったことで、できれば市の職員がされるというのも、なかなか大変かと思えますけれども、考え方によっては信頼できる第三者というものに委託をするなりして四六時中監視するような、そういう方策というのは考えられないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

お答えします。

安全をやっぱりしっかり発信するということになれば、今、田中議員が言われましたように、夜

間のもも必要だというのであれば、市のほうで、それなりの対応はしなきゃならん。ただ、毎日毎日測定するのがいいのか、あるいは1週間に1回とか、そういうものの検討をさせていただいて、やっぱり情報というものをしっかり捉えながら、安心というものを訴えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

搬入されている車の洗浄について伺いますけれども、この車の洗浄というものは、どこで、どのようにされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

搬入されている車の線量につきましては、企業、それから市の職員が行って、前面、それから早く言いますと四方をはかっているということでございます。

7番（田中立一君）

洗浄。

環境生活課長（渡辺 勇君）

線量につきましては、電気化学工業につきましては0.03から0.06マイクロシーベルト、それから明星セメントにつきましては、0.02から0.05マイクロシーベルトの範囲内でございます。

それと、あわせて 線もはかっております。線につきましては、電気化学工業につきましては23から128CPM、それから明星セメント株式会社については27から114CPMでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

搬入車の洗浄は行っているけども、またそちらの放射能測定も行っていると。その放射能測定のほうは、今言われた数字だと、そういうふうに理解してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

搬入車の洗浄については、どちらの会社とも会社の中ではやっておりません。洗浄が必要な場合には、搬出元へ行ってやってるというふうに聞いておりますので、そこはやっていないということ

でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

搬出元でやっているということは、新潟、長岡、そちらのほうでやっているということでしょうか。搬入する車はどちらの、市サイドの会社だったんじゃないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

車の洗車というのは、ちょっとどこでやってるか調べてございませませんが、もし必要であれば、ちょっと時間をいただいて調べさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

車両でございますけども、電気化学工業株式会社についてはカネヨ運輸、それから明星セメントについては、太平洋陸送という会社が行っております。

洗車が必要な場合については、それぞれ搬出元のほうで行っておるといふうに聞いております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

搬入車のほうはわかりました。

集じん機についての洗浄はいかがなんでしょうか。集じん機というものは水洗いするんでしょうか。また、フィルターの交換というものをするんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

工場で排ガスが出るわけですけども、その集じん装置というものは電気集じん機でございます。その電気集じん機につきましては、水洗いとかそういうものではなく、打設によって集じん板についたものを落として、それがまた再原料化されるということで、洗浄というものはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

公表されている放射能測定の数値を見ますと、雨の日やみぞれの日、雪の日が多いというふうに聞いてますし、これまでの報告でもそのようにされているところですけども、いわゆるフォールアウトしたところが、ホットスポットの状態になるんじゃないかということも懸念されるんですけども、そういうことで、もう少し放射能測定地点のその辺の検査体制というものの見直しということが、これから考えられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長(渡辺 勇君)

おっしゃるとおり雨だとか、みぞれのときは、やはり数値は若干高くなります。というのは空気中にあるものが、それに含まれて落ちてくるということで、それををはかると若干高くなるという形になります。でありますので、大体通常ですと通常値が変わっていないということでございますので、測定地点については今のところ、現在のままで行いたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

他の事業体の搬入予定は、先ほどの答弁では問い合わせ、あるいは予定がないということなんです。全然この先もその辺の、何で搬入予定がないのか、今後の見通しという言い方はおかしいんでしょうかね、その辺の見通しはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長(渡辺 勇君)

先般、新潟市が中心となっておる13事業体で会議を行ったときには、1、2の自治体で、それぞれ処理をしないといっぱいになっておるといような情報は得ておりますけども、それがじゃあいつからという具体的な話は、今のところ聞いてないところでございます。

議長(古畑浩一君)

田中議員の一般質問の途中でありますが、暫時休憩とし、再開を13時といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 開議

議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、田中議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

放射性物質の汚泥処理につきましては、非常に不安をおぼえる市民が多いわけでありますので、環境の測定をしているから大丈夫ということばかりじゃなくて、不安を解消するためにはどうしたらいいかということ、今後も引き続き努力をしてもらいたいと思います。

放射性物質の汚泥については以上で質問を終わりました、次に、北陸新幹線の開業と並行在来線等でございますけれども、先ほどの答弁と、その前の質疑とのやりとりなんですが、北陸本線の全線開通100周年記念事業については、北陸新幹線開業の実行委員会の組織の中で、いろいろと検討をされているようなんですが、この実行委員会の組織というのには市外の自治体とか、あるいは、そういう関係の団体とかは入っているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

先ほどの中で、昨日のこの実行委員会の立ち上げを説明させていただきましたが、今回の今組織の中には、他市のものは含まれておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほどの答弁では、隣接自治体等には働きかけをしていくと。その働きかけの中で、北陸新幹線開業に向けて盛り上げていく中で、他市との連携ということですが、その組織の中にまた今後、組み入れていくとか、見直しとかはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、新幹線開業には他市との連携が大事でございますので、組み込む、組み込まないは別として、当市は大町市、それから白馬村、小谷村とは、大糸線のいろんな協議会の中でも連携しておりますし、直接、朝日町とは、そういうものは持っておりませんが、当然この中で、また働きかけ、場合によっては出向いて、いろんなことを連携できるかどうかを進めてまいります。組み込む、組み込まないは、また組織の中で話し合いをさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

今、大町市、あるいは白馬村、朝日町等の自治体の名前を聞かせていただきましたけれども、ちょっと伺いますけども、新幹線開業に当たって、この糸魚川駅を利用する客というものをターゲットと言ったらいいんでしょうか、利用される自治体、ターゲットとする距離的なものですが、どこまでを考えてられるか。もしその辺の考えがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

今、その細かい資料は持ち合わせてはおりませんが、当然、大系線沿線は新幹線がないわけですから、その沿線市については、当然、区域の中に入っておりますし、それから朝日町、入善あたりは黒部との競合もありますけども、当然、東京へ行くときはうちの駅が近いので、その辺は全て圏域という形でのシミュレーションはしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

やはり他の自治体の圏域というものをしっかりと戦略を持って、もう2年後に迫っているので、具体的にこういったものを取り組む形というものも目に見えてほしいなど。

他の自治体ばかりでなくて、例えば私は能生なんですけれども、最近よく耳にすることは、新幹線ができて、どの駅で乗るかということになりますと、必ずしも糸魚川を利用するという声が聞こえるわけではありませんので、東京へ行く場合には、脇野田を利用したほうがいいのかなとかいう声もあります。やはりそういう声を聞きますと、糸魚川としては、やはり多額のお金を新幹線の駅にも使ってるということもありますし、やはり停車問題もありますので、そういう戦略の中に、また地域内のことにおいても、配慮をした取り組みというものを、もう既に始めていただきたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

当然、新幹線の利用促進、これは考えていくところでありまして、これについては当市の交流人口の拡大をジオの中で特に促進を求めてまいりますので、この中にも鉄道のプロジェクトというものもありますし、そういうものも含めて今既にもう検討を始めてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

検討を始めていただき、なるべく早く示していただいて、やはり利用促進につなげていただきた

いなと思います。

また、早目にとということでは、先ほどデスティネーションキャンペーンのDCの話を見せてもらいましたけれども、ことはプレで4月から、もう3カ月始まるわけですね。このプレキャンペーンに対しての取り組みというのは、まだ私らのほうには見えてこないわけですが、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ご存じのようにデスティネーションキャンペーンは、来年、2014年を中心に、4月から6月という一定の期間で、地方自治体並びに県、それから観光関連業者、あわせてJR6者が主体になりますけど、一緒に3カ月単位の大型観光キャンペーンをやるということになっております。

新潟県の特性の中では、食のほかに花、雪、酒、匠というのを取り組みながら実施することになっておりますけど、既にその前年、議員おっしゃるとおりプレキャンペーンということで、この4月からスタートすることになってます。また、当地に新幹線が開通する時期はポストキャンペーンということで、また1年、3年間を総じて、少し誘客拡大につなげたいということです。

機運の醸成は十分ありますけど、私どもはそれに先立ちまして、周辺周遊プランというのを県のほうに提出させていただきました。実態を言うと、なかなか現実には難しいです。会議の中では、東日本しか出てきておりません。ちょうどこの地域は西日本とのポケットになっておりまして、残念ながら私どもが提案した数カ所の周遊プランについては、今回、採択ということにはなりません。残された道はJR西日本とを含めまして、オリジナルプランの醸成になるのではないかなというふうに考えております。もう既に糸魚川駅を中心としまして、西日本のほうに少し働きかけをしております。

いずれにせよ、新幹線を機軸として長野ないしは、今現在ですと上越新幹線周辺を乗降の窓口として周遊プランを考えられておりますので、現在の在来線とあわせて、どういうふうに利用拡大を図っていくかというのが大きな課題であると思います。私どもはできるだけ地域の観光業者、並びに関係者としてしっかりタッグを組みながら、できるだけ早目に提案、ないしはプランのまとめに入っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

できればプレの段階からポストまで、しっかりと取り組んでいただきたいし、もうプレはあと1カ月後ということなので、もうそろそろ目に見えた形のものもまた欲しいなというところであります。

ところで、このDCの応援隊長はレルヒさんですね。糸魚川では、そういった形の応援体制、あるいはかわり方というのは、どうなっているのかなというのも気になるんですけども、このレルヒさん、大変なゆるキャラの人気ので、昨年のゆるキャラグランプリでは12位というふう

に聞いております。また、ゆるキャラそのものも大変な人気で、地域の情報発信とか知名度のアップに貢献しておりまして、さらに経済効果も大変なものがありまして、ちょっと調べてみましたら、ゆるキャラ関連の経済効果というものは1兆6,000億円というふうに聞いております。

2011年のゆるキャラグランプリで優勝した熊本県のくまモン、これが今大変な人気でありまして、もうご存じですけども、これの経済効果、上半期で118億円、昨年、通年で290億円とも、それ以上ともいうことだそうです。このようなゆるキャラ、当市にもあっているいと頑張っておられますけれども、こういった観光キャンペーンやいろんな場での活躍、活用の考えというのは、今後どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

非常に戦略上、かわいいとか、優しいとか、癒やしという部分では、非常に目にとまると思います。私どももぬーなとジオまる、それからブラック番長という大切な3体があります。これを大いに今活用してるわけですけど、特に宣伝媒体としてのテレビ出演、そのようなものの中では、しっかり活用させてもらっております。今後も多分、出番が多くなると思いますので、しっかり皆さんに覚えていただいて、糸魚川を代表するキャラクターになるように側面的に、一緒に頑張っていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

くまモンで感心するのは、その経済効果、もうかる仕組みを戦略的にやってるということで、やはりこのもうかる、経済効果というものを、きちんとかういうアイテム使うなら使って、さらにブラック番長はフェイスブックをやったりとか、そういう情報発信もしてますけれども、そういったこともあらゆる手だてを使って、また経済のほうにも結びつけていく方策というものをやっていただけたらなと思います。

ICTの活用のほうに入るんですけども、当市としてはどのように考えてるかというのがありますし、市長がどのように考えているか。市長はブログについて市民との対話、あるいは観光やジオパーク、市の広告塔として、このようなブログの開設等には考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私はどちらかという、市全体で取り組んでおるわけでございまして、私一人の個人の考え方というよりも、そういったやっぱり私はチームプレーでいくべきだというふうに捉えておるわけでございまして、一体感を持って今進めさせていただいてるわけでございますので、そのようにご理

解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

考えはそれぞれであろうかと思えますし、それはそれで結構かと思えますが、例えば安倍総理が就任後、フェイスブックで非常に話題になってフォロワーも多い。また、泉田知事もツイッターで、短いですが、盛んにアップされて、フォロワーも多いというふうに聞いておりますし、何よりも従来の世代ばかりじゃなくて若い世代、またスピード感、行政の敏感な反応というものが、すぐに伝わるということでは強力なツールじゃないかなと。行政のトップとしては、やはりそういったことも今の時代、必須アイテムとしては考えていく余地があるんじゃないかなと思って聞かせてもらいましたが、それはそれぞれの考えであろうかと思えます。

ちなみに、お隣の上越市長も市長のページですか、非常にアクセスが最近ふえているということで近々、もう始めてるかもしれませんが、始めているということも聞いておりますし、またもし検討する余地があったらどうかと思えます。

そのツイッターなんですけれども、糸魚川市は始めておりますが、ジオパークのほうでも始めて、そのツイッターのフォロワーの数、これは幾つぐらいで、その数についてどのように思われているか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

数字的なものは、今ちょっと資料を持ち合わせておりませんので、申しわけありません。

ただ、情報を提供するという手段よりも情報を逆に見た方が流すという部分で、非常に有力なツールだというふうに思っております。現在、市長の話にもありましたとおり、去年はQRコード、それから今回はスマートフォンを年度内に、できればアプリケーションを展開したいなというふうに思ってます。

県でも先般1月に、公衆無線LANのスポットマップというのをつくって公開しておりますので、地域内でもどんどん展開するものというふうに思ってます。私どもも情報収集しながら利活用、1つのツールとして活用してまいりたいなというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

市のほうでやっておりますツイッターのほうでは、2月14日現在ということではありますが、フォロワーの数が661と、確実にふえてはおりますが、そんな爆発的なふえということにはなっていないという状況にあります。

このほかに先ほど言いましたように、交流観光のほうではフェイスブックのほうでの情報提供も

始めているということで、そちらのほうはまた今後、力を入れて取り組んでいく分野かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

新幹線の開業を控え、観光交流都市をやろうとしている市としては、フォロワーの数が660は果たしていいのかどうか。また、ジオパークのフォロワーのほうで、私が調べたら60ちょっとかと思えます。果たして、この数でいいのかどうか。目的は今伺ったので、そういったことによって、その辺はいいのだと言われればそれまでなんですが、この時代、またそういった目的の中で、果たしてこのままでいいのかなという危惧を正直感じるところであります。

各ホームページの開設ですけれども、例えばフォッサマグナミュージアムや各ジオサイト等でのホームページの開設というのは、今後考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

各ジオサイトを機軸とした情報の公開というのは、単発的には行っておりません。なお、今回のアプリケーションもジオの24サイトの紹介から始まりまして、機軸はそこにとっておりますけど、あとは商業施設、アプリケーションのタッチパネルを使いまして、呼び込んで追い込んでいけば、食べる、それから遊ぶ、お土産というような形で、市内の商業施設とリンクできるような形で、どんどん細部まで情報が取れるようなアプリケーションの連携を図っておりますので、それを使えば総合的な24サイトが理解できながら、それぞれの目的別にタッチできるということになると思いますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

アプリの話は今されておられますけども、ぐるり糸魚川という観光アプリがございますね。1月に開設されていますけども、これは市のほうではかかわっておられないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

見ていただいて本当にありがたいんですけど、今、試験的に二、三カ月、少し開放させていただいております。今話したのが、そのまさにアプリケーションなんで、年度内にはしっかり公開して、開始にたどり着きたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

試験的にされてるアプリが、今じゃあこのぐるり糸魚川ということで、やはり同じように先ほど説明をされましたけれども、ツイッターとかフェイスブックでの発信も可能だということなんですが、その試験的な、そのデータの内容というものはどうなんでしょうか、利用状況とかですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

限られた人といいますか、まだ非常によく知ってられる方が見られているのが現状だと思いますので、会った方からいろんな話は聞いてますけど、順次改修といいますか、悪い点を補完しながら今整備に入ってますので、いましばらく試験的というふうな感覚で見えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

公衆無線LANの整備、先ほど随時進めていくという答弁をいただきましたけれども、県とのいろいろと整備に入れる報道もされているところであります。ちょっと事前になると悪いんですけども、国際会議の誘致ということも考えておられるという話も聞きましたが、国際会議されるには、非常に通信環境の充実というものが大事なんですけども、そういったものにあわせた形というものは、考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

国際会議の招致というのはもう少し先の話で、文化振興のほうで取り組む行事かなというふうに思っておりますが、それはそれとして我々としては、やはり今のWi-Fi環境の整備というものについては、県のほうでも今25年度予算で取り組まれる方向かなというふうに見ておりますので、そこら辺、県の補助が受けられるように準備をして、また申請等もしていきたいと。もし県の補助が受けられれば、当然、それに沿って補正なりをさせていただくというようなことを考えております。なるべく早い段階で、主要な施設にWi-Fi環境を整えていきたいということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

県の支援も大事ですけども、計画的に開業までには、あるいはDCに合わせて、ここまでやりた

いというものを示したやり方のほうも必要なんじゃないかなと思います。一言言わせてもらいました。

次に、並行在来線のことですけども、国の支援ですが、830億円という県の試算を含んだ金額ですが、信越本線の貨物経路確保、豪雪対策支援、北陸本線の貨物調整金など、大きく4つ示されましたけれども、それぞれおおよそ幾らぐらいかというのは、把握されているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

先ほど県が来て説明もしましたが、国のほうでは780億円を超える額、県はそれをさらに積み上げると830億円相当ということの中で、今4つの項目を市長がお答えしましたが、その個々の4つの内訳の中身は示されておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

国の新しい支援策で、JRからの鉄道資産取得45%、設備投資更新に30%等の交付税措置の話があります。出資金の施設の取得費を補助に切りかえる可能性があるというふうに、先日の特別委員会でも説明をいただきました。これは出資金を補助に切りかえることだけであって、出資金が軽減されるということは全然ないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先般20日の日ですか、特別委員会で県のほうから、会社のほうから、それぞれ説明をいただきました。ですが具体的な数字というのは、なかなか細部によっては示されませんので、3市共同で県からしっかりこの説明をいただかないと、いろんなスキーム、経営スキームが出ませんよということで、今、県のほうへそれなりの調整を早急にしていきたいということで、図ってることでありまして、やはり当然市の負担、あるいは会社の負担、県の負担が詰まっていけないと、全体の計画というのは了解できないというふうに思ってますので、もう少し時間をいただきたいと思ってます。ただ、やっぱり3月中には結論を出したいということを会社、県でも言ってるわけですので、しっかりそこら辺は早期に詰めなきゃならんというふうに感じを持ってまして、その方向で3市と足並みをそろえて、県に要望してるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり同じく特別委員会で話がありましたけども、沿線3市は7億6,000万円の出資につい

てですけども、さらに計40億円の補助の負担、このことについて、きのう、きょうの報道で、知事は沿線市の負担分は、出資・補助とも並行在来線開業により得られる固定資産税の相当額で、確認書の範囲内ということを経営されておりました。これに準じたことを県の説明会、この間の説明会でも言われておりましたけれども、改めて伺いますが、これについて市は同じ考えというふうに捉えていいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

県知事は従来から、やはりそれぞれのJR資産、あるいは新幹線の資産に対する固定資産税が、それぞれの自治体に入るので、それらを何とか活用しながら経営の改善を図るのではないかというような趣旨を言われて、これまできたというふうに認識をしております。ですが、やはりここまでくれば、いろんな積み上げの結果として出資があったり、あるいはそれぞれ補助金を出すかということを経営していかなくやならんと思っておりますので、県知事の言ったことを、即、私らがそれに準じて対応できるかどうかというのは、もう少し時間を詰める中で、しっかりと応えていかなくやならんと思っております。

ただ、出資のほうにつきましては、県が大幅に出すわけですから、九十何%出すわけですから、3市の中では当初の投資が大きいわけですから、ここら辺はやむなしかなというような考えは持っておりますが、ただ、やっぱり補助金等についてはもう少し中身が、先ほど言いましたように、しっかりしたものが出ない限りは、即、返事ができないというのが今の状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いずれにしても、じゃあ3月末までに、その辺のところを県、あるいは沿線3市と詰めていくということでしょうか。

それで車両はディーゼルが1両で走行できる、経費も安いというふうにはわかっておりますが、この経費が安いという、電車とディーゼルではどれくらい違うかとか、そういう試算というのをされていたら、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

一昨年あたりはディーゼル1両と、それから電車、要するに交直両用が要るわけですから、その辺のあたりの試算では、ディーゼル1両と、それから電車にすると、貨物調整金等も含めて50億円ほどの収支の違いが出てくるという説明を受けておりますが、最近のその資料に基づいたものは、今のところ出ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

石川、富山県は、JR西日本との資産譲渡の合意では、車両については現在使われている新型の電車を、安く払い下げる方法をとっていますけれども、このことについての検討、あるいは考えというものは、全然なかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

会社、県では23年度ぐらいのときから、先ほど言いました経費が安い形でのディーゼルという形で進めておりましたので、その辺の車両譲渡について、西日本には電車をということは、なかなか話してなかったというのをお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ディーゼル車に対して、やはり不安を抱く市民が結構多いというふうに感じておりますので、今後もディーゼルでいかれるかと思うんですけども、その辺の不安を取り除く努力というものを会社あるいは県、市と取り組んでいただきたいなと思います。

経営基本計画については行政報告で1日、きょうの市民説明会での意見を聞いたり、議会の意見を聞いたりして、今月末までに決めていくというふうに話をされていましたが、その市民説明会等で時間が足らなくて、まだいろんな意見が出てるという状況が、もし発生した場合は、今後、市民説明会等、そういうのをまたやっていくということは考えられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

会社としましては、先般、特別委員会、その後、きのうですか、商工会議所団体、きょうは一般市民説明会ということで、それぞれ会を開いてやっとなるわけですが、今、田中議員が言われますように、もっと多くあったり、新しい意見が出たりということであれば、会社のほうにそれなりのお話をしていかなきゃならんと思っておりますが、ある程度、話の中では、同じような繰り返し、実際はきてるのかなという感じで捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1つ関心があるのは運賃についてでありまして、国の支援等のおかげで1.6倍を当初想定

したものが、1.3倍以内に下げられるという、それでも経営が成り立つという見通しが立ったという話は聞きますけれども、やはりこの辺で今利用する多くは高齢者や、あるいは通学、またそういった定期でありまして、それについての不安を感じる声が、よく最近また聞かれます。やはりその辺のそこを配慮した形というものを、市としても考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

並行在来線に当たりまして、当市のやっぱり市民の負担が少ないこと、あるいは利便性の確保等が、最初からの大きな市の要望であったと思っています。先般、1.3倍未満の中で抑えたいということの話がありましたが、先ほども言っていましたように経営のスキームをしっかりと求める中で、やはり富山県、あるいは長野県が、かなり低く出てるわけですので、その動きの中で、しっかりと市民要望の中での低くなる形で、今後とも努めてまいりたいと思っていますが、今の段階では1.3倍というのは示されましたので、それ以下になるように、また県知事、あるいは3市で協議の場を設けていただきたいということも含めまして、話をしとるところでありますので、もう少し時間をいただきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

お願いします。

新駅についてでありますけれども、先ほどの答弁で利用の見込み、あるいは費用対効果等を考えてという答弁をいただきました。

きのうの商工会議所の説明会で嶋津社長は、利用増が見込めるので会社としては押上に新駅をつくってほしいというコメントが載っております。このことについては、市の考えというのはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

きのうの商工会議所と会社の中での話では、確かに今議員の言われたことは言われたわけですが、新駅についてはやっぱり糸魚川市としての交通体系がどうかということが主体になるんだろうと思っています。市の考えをしっかりとまとめなければ、まずそこから会社、あるいはこれだけのものを整備をするとなれば莫大な金がかかるわけですので、県等にも話をしなきゃならないと思っています。それを踏まえた中で、しっかりと方向を出したいということですので、今、即それぞれの高校、あるいは地区からの要望があったり、また、それ以外のところも前回の特別委員会の中でも話があったわけですので、こら辺はしっかりと状況を踏まえたり、あるいは背景、あるいは今後の投資等も

踏まえる中で、まとめていきたいというふうを考えておりますので、会社の考えとして、きのうは社長が話をされたということですが、できればこの中で、市と協議をする中で決めたいというようなことが、一言コメントがあればよかったかなというふうには捉えておまして、きょう会社の社長が来ますので、そのことは一言言わなきゃならんということでの考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

またそういったことも踏まえて、市の交通体系、あるいはいろんな費用、あるいは周辺の整備等も、いろんなことを加味しなければいけないということも理解できますが、できるだけその辺のところを早く考えていただいて、示していただけるようになることをお願いしたいなと思います。

開業までに整備が必要な既存施設ということで、やはり気になるのがトンネル内のことなんですけれども、先日も外波で剥落することがありましたけれども、それを受けて、いろんなトンネルの点検整備されているかと思うんですけども、その辺の状況はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これも先日2月26日に、泉田県知事とJR西日本の社長の間で、譲渡に関する面談ということで、その策が公表されておりますが、そういう中では鉄道施設の整備として、必要な既存鉄道施設の整備を譲渡前に実施する。それから、トンネル区間の安全性向上のための対策工事を実施するという項目が盛り込まれておりますので、そのとおり実現するものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

安全対策というものについては、しっかりとお願いしたいなと思います。

やはりトンネル内なんですけれども、トンネル内で何かあれば大惨事になるということがあるので、本当に慎重な対応が必要なんですけれども、例えば長大トンネルの中に固定電話等もあります。こういったものの利用というものも、万一のときには想定されるのかもしれませんが、トンネル内では携帯の電話が使用できないところが、ほとんどかと思えますけれども、こういったものの携帯が利用できるような形というものは、考えられないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

先日の特別委員会の説明の中でも、今のJRが運行してる安全対策に加えて、会社独自が考えと

る案も出されました。その中では携帯までは触れられてはおりませんでした、その辺がいいのか悪いのかも含めて、その辺を1つの提案として話していくことも必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

最後に、中山間地域と農業でございますけれども、今、本当に原油高で農家は苦しい思いをしているところですけど、先ほど県や市のほうでの補助があるということで、この辺の周知というのは、どのようにされているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今お話いただきましたペレットの活用につきましては、市内でペレットの製造工場が今建設をされておまして、今月の半ばごろには稼働が始まるというふうにお聞きしております。

それらを有効活用していく中におきましても、ご提案いただいたような部分を農業に利用するのは大変有効なことだと思っております。ただ、まだ農家の皆さんへは、この補助制度等の周知は不足しているかなと思っておりますので、今後周知してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

森林再生とカーボンニュートラルエネルギー、そういったことによる森林吸収、CO₂削減効果、先ほどの経済的な面もあわせて、こういったことも期待できるわけでありますので、ぜひ利用しやすいような拡充に力を入れていただくことをお願いして、私の一般質問を終わります。

どうもありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

次に、齊藤伸一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。〔23番 齊藤伸一君登壇〕

23番（齊藤伸一君）

新政会の齊藤伸一です。

私は平成7年4月に市議員に当選し、行政のチェック機関としての議員活動を開始しました。初めての定例議会は先輩議員より、まず状況を把握してはとのアドバイスにて、一般質問はお休みしましたが、その後、5期18年間において欠かさず一般質問を行ってきました。その間、私の質

問においての意見や提言について、数多く行政より取り入れていただきましたことは、少しでも議員としての責務を果たしたものと思っております。

今回の一般質問は私として最後になりますが、答弁のほどよろしくお願い申し上げ、一般質問通告書に基づき1回目の質問をいたします。

1、救急救命体制について。

- (1) 当市における急病や一般負傷等の搬送を要する救急出動件数の年次的推移と、救急種別の内容を伺います。
- (2) 救急出動件数のうち、明らかに不適切利用と思われる例はあるか。明らかに軽症であると思われる傷病者数はどうか。また、本来の業務に支障をきたさないための周知の取り組みはしているか伺います。
- (3) 山形市消防本部で、大学生からの救急車出動通報に対し、救急出動がなされなく死亡した事例や、横浜市港北区において通報者と同姓の別人宅へ出動し、到着が遅れ死亡したという事例があった。通信司令室の通報受信時においては、確実な状況判断及び専門知識による的確な応答が求められるが、対応を伺います。

2、体罰について。

大阪市立桜宮高等学校で発生した、体罰が理由とみられる男子生徒の自殺事件は、全国に衝撃が走りました。その後、日本トップクラスの柔道女子においても体罰問題が表面化し、体罰が社会問題になっていることから、以下について伺います。

- (1) 当市における体罰に関する実態はどうか。
- (2) 今回の事件でクローズアップされた体罰について、教育委員会としては、市内の小中学校にどのような対応及び指導を行ったか。

3、都市交流について。

糸魚川市は、11市町村と都市交流を行っている。下記の交流の状況及び今後の交流推進の考えを伺います。

- (1) 姉妹都市（長野県塩尻市）との交流。
- (2) 友好都市（北海道新ひだか町・岩手県葛巻町・長野県山形村・福井県大野市・兵庫県南あわじ市）との交流。
- (3) 知音都市（島根県浜田市・長野県長野市・長野県中野市）との交流。
- (4) 姉妹ジオパーク（香港）との交流。
- (5) 観光交流都市（長野県飯山市）との交流。

4 糸魚川駅周辺整備について。

- (1) 駅前商店街のアーケードの取り付けについて、どのような方向性が。
- (2) 空き店舗が増加しているなど、駅北商店街の活性化が求められている。新幹線開通が目前に迫っていることから、商店街活性化についての取り組みを伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

齊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、搬送人数は、平成22年・1,908人、平成23年・1,906人、平成24年・1,870人となっております。救急種別は、平成24年の急病が1,215人で、全体の65%を占めており、一般負傷が303人で16%、交通事故が154人で9%、この3種で90%を占めております。

2点目につきましては、明らかに不適切利用と判断できる救急出動はありませんが、軽傷での搬送人数は、平成24年・1,011人で、全体の54%となっております。救急車の利用方法につきましては、ホームページ及び「おしらせばん」などで周知いたしております。

3点目につきましては、原則として救急隊を出動させて救急患者に接触し、病院への搬送について判断いたしております。また、出動場所は、出動指令書の地図上に表記して確認できるシステムとなっております。

2番目の体罰のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

3番目の1点目から3点目につきましては、市民間での訪問、受け入れ事業及びイベントでの物産販売等を実施いたしており、特に塩尻市につきましては、姉妹都市提携に基づく災害時相互応援協定を締結いたしております。

いずれの都市交流も、市民レベルでの自主的な交流が活発となるよう普及啓発を図るとともに、側面的な支援に努めてまいります。

4点目につきましては、市内の中学3年生を香港へ派遣するとともに、スタッフの交流を行っております。今後、来訪者をふやす取り組みなど、香港ジオパークとの交流をさらに深めていきたいと考えております。

5点目につきましては、この1月に飯山市と観光交流都市協定を結び、相互交流と交流人口の増加を図るため、両市が連携して活動いたしてまいります。

4番目の1点目につきましては、今年1月に、組合からアーケード建設について全組合員の同意を得たとの報告を受けており、市といたしましても新幹線開業までに、アーケードが建設できるよう支援をしてまいります。

2点目につきましては、新幹線の開業を大きなチャンスと捉え、にぎわいづくりや各店舗の魅力アップにさらに取り組んでいただくとともに、市も糸魚川商工会議所をはじめ関係機関と連携をいたしまして、商店街のにぎわいづくりに支援をしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

齊藤議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、現在のところ体罰の事案はありません。

2点目につきましては、全小・中学校に文書による指導と、校長会における口頭による体罰根絶の指導を行っております。また現在、児童生徒、保護者、教職員への調査を行っているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

救急業務は命にかかわることから、住民生活に必要なサービスとして定着しております。また、住民のニーズは年々高まり、救急業務の高度化がより一層求められるようになってきました。その一方、さまざまな問題も浮き彫りになってきております。

そこで糸魚川市における救急業務の状況について伺うわけですが、全国では救急車の出動件数は増加しておりますが、市長の答弁からしても、当糸魚川市は減少傾向にあります。これをぜひ続けていただきたいと思うものであります。ただし、高齢化が進んでいる本市にとって、いつ増加に転ずるかもしれず、一刻を争う事態で救急車が間に合うため、市民に救急車利用の周知が必要と考えます。

特に、糸魚川市における救急出動に占める軽傷者の割合は54%と、全国平均の50.4%を上回っております。軽傷者については、できるだけ救急車の利用を控えていただく等の取り組みが、必要と考えるわけですが、周知の強化をどのように行っているか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

高齢者につきましては、利用が多いということにつきましては、確かにご指摘のとおりだと思っております。ただ、本市の場合には、やはり高齢者の方が多い傾向にございまして、それも高齢者の方というのはちょっと熱を出しますと、家族の方でも病院へお連れするのが大変でございます。そんなこともございまして、高齢者の方がやはり多くなるのは、やむを得ないのかなという面もございまして。

ただ、救急車の不適正利用ということについては、基本的には、これは我々が判断するのではなくて、お医者様が運んだ結果として、それが不適正であったかどうかというのを判断されるのが当然の話でございまして、我々とすれば、そういうものを含めて、やはりきちっとお医者さんのところへ送り届けるということが使命だと思っております。

それから、市民の皆さんへの不適正利用の周知につきましては、先日の医療フォーラムでも糸病の院長先生がおっしゃっておられました。糸魚川市民は、不適正利用はあまりないんだということをおっしゃっておられました。そうは言いますが、やはり重なって本当の重要な方々に出動できないというケースも考えられると思いますので、ご指摘のとおり広報「おしらせばん」を使って、今までも努めておりますが、ただ十分かといいますと、欠けている点もあると思いますので、その点につきましても、努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

糸魚川市のホームページ、確かに119番通報についてなど、細かなところまで一応載せているわけなのですが、なかなか私からすると難しい。お年寄りが、まずホームページをどのように開くかということ自身がわからないこともある。

調べたところ平成23年3月に、総務省の消防庁では、救急車利用マニュアルというものを発行しておりました。これは本当にお年寄りもわかりやすいものでありますし、これをぜひ活用、利用してはどうかと思うわけですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

その資料につきましては、私も見せていただきました。ご指摘のとおり大変わかりやすい資料となっておりますので、ご指摘のとおり、また活用させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それから、ちょっと調査してみたところ、群馬県の太田市では市民が病気やけがのとき、命や身体を守る重要な役割を担っている救急業務について、そのコストを分析し、要は住民1人の救急業務の負担は幾ら、また、救急車1回出動するについては、幾らかかるとるんだということをちゃんと市民に周知をしている、こういうところもあるわけであり、実際に言葉だけではなく、こういう数値によってわかりやすく市民の皆さんに、これだけかかるとるんだよ、糸魚川市からの税金、これだけ出るとるんだよということも必要ではないかと私は思うわけであります。このことについての考え方と、それから糸魚川市においては、救急車1回について幾ら税金がかかっているのか、この2点について教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

前段の部分は、消防費全体でおよそ10億円ぐらい予算になっております。人口で割っていただきますと自動的に金額が出てくるわけございまして、ご指摘のとおり実際にかかるコスト等につきましても、市民の皆さんに広報に努めるとというのが我々の役目だというふうに思っております。

それから糸魚川市の救急車1回出動すると、どれぐらいかかるかというお話でございますが、こ

れにつきましては救急車の取得費、それから諸経費、それから人件費等を足して、24年度ですと2,000回ほど出ております。そうしますと、1回当たり7万5,000円程度の費用がかかるということになっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

山形大生の119番通報問題で、死亡は痛ましいものであります。通報による救急車出動の是非については現在起訴中であり、触れるものではありませんが、1点だけお聞きしたいのは、糸魚川市の場合はどうかということなんですが、山形市消防本部の場合は、通報段階で通信員が緊急度判定の手順に従い、意識、呼吸など6項目の症状から総合的に緊急性を判定し、緊急が認められないと判断した場合は、自家用車やタクシーなどを利用できるか確認し、病院を紹介するシステムだそうですが、市長答弁があったんですが、もう一度その糸魚川市の場合のことと、それから電話対応による相手の症状が見えない中での、症状による緊急度判定はどのように行っているのか。要は、119番対応マニュアルというものがあるのかどうかということ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

当市の場合は、救急車の要請があった場合には、どんな場合でも現地に出動し、要求者と接触をしてから判断をするということが基本であります。100%それを実施しております。その上で、搬送する必要があるかないかと判断し、その後、対応しているという現状でございます。

それから具体的に救急車の要請があったときに、判断マニュアルがあるかということですが、山形市さんのようなトリアージといいたいまいしょうか、そういうことを基本的にはやっておきませんので、緊急性を要するかどうかという判断は、具体的にそういうものはございませんが、ただ、要求者が2階にいるとか、例えば接続する道路がないとか、いろんな場合には、やはり救急車だけでは対応できません。ポンプ隊といいたいて、ポンプ車と救急車がセットで出動し、基本的には7人体制で患者様をお運びするというような体制をとる場合もございますので、やはり傷病者がどのような状態で要請をしているかというような対応については、その電話の中で十分なお聞き取りをさせていただく中で、適切な対応をさせていただくということを原則として進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

今回の山形市の問題、また横浜市の問題等があることから、再度、糸魚川市としても通信司令業務に関する研修を再度行うべきと考えるが、いかがでしょうか。

例えば症状などから患者の状態を把握することや、119番の会話の仕方、また、医学専門員による医学的な知識に関する講座の開催の件なんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘の点については、本当に大切なことだというふうに認識をしております。そういう意味で、よりお客様から聞く情報のレベル、内容分析についての職員のレベルをアップするという点については、大変重要なことだと思っております。

最近の例でいいますと、能生のスキー場におきまして脳疾患、もしくは心臓疾患と思われる患者様の要請がありました。当地域では非常に難しい状況というのがありまして、ドクターヘリを要請して、先日、能生のスキー場に新大の先生から直接降り立っていただいて、診察をしていただき、20分にわたる応急処置をしていただいた後に、上越の中央病院にヘリで搬送したという例がございました。そんなものも含めて、市民の命を守るためにトータル的に捉えて、やはり救急対応に努めるべきだという認識で取り組んでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

私は糸魚川市の消防本部で救急対応の訓練を受けたことがありますが、そのとき119番通報のやりとりの録音を聞かせていただきましたが、通報者は慌てふためいて大声を出し、パニックの状態の中で、冷静に対応し、落ちつかせ、的確な情報を聞き出している通信員を尊敬しました。出前講座や緊急訓練時に、そういう生の録音の声を聞かせたり、そういうことにより市民の救急業務に対する意識の向上が図られるのではないかと思うわけですが、録音の利用についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご提言につきましては、研修等で活用させていただきたいと思っておりますし、また、市民の皆さんにつきましては、応急手当訓練などに非常に熱心に参加してきていただいております。市民の皆様も、その認識は高いというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

短い時間と電話のやりとりで、通信員が具体的な判定項目などに基づいて、最終的に判断する判定を行うことは大変なことであります。そのためにも日ごろから鍛練を継続していただきたいこと

を申し上げまして、次の質問に移らせていただきます。

体罰についてであります。

学校教育基本法第11条では、校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより学生、生徒及び児童に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできないと定めています。すなわち悪いことをした学生、生徒及び児童は、懲らしめてもよい。しかし身体を傷めることはしてはならぬということです。

そしてもう1点は、平成19年度、文部科学省通知の問題行動を起こす児童生徒に対する指導については、教員などが児童生徒に対して行った懲戒の行為が体罰に当たるかどうかは、当該児童生徒の年齢、健康、心身の発達状況、当該行為が行われた場所及び時間的環境、懲戒の対応などの諸条件を総合的に考え、個々の事案ごとに判断する必要があると定めております。私としては本当に難しく、わかりにくいわけでありまして。

そして文部科学省による体罰の定義は、打つ、蹴るはもちろん体罰ですが、体罰の機械的定義はできないとなっております。しっかりやれよと、拳で頭をこつんとやる愛情も体罰なのか。また、受ける側の受け取り方によっても違ってくるのではないかと。体罰と懲戒及び指導やしつけを含め、教育長としての体罰についての見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

非常に難しいご質問だなということを感じております。

今、文部科学省が平成19年2月5日に出した、問題行動を起こす児童生徒に対する指導について、この通知の中での内容にも触れられておりますが、やはりただし書きも、体罰を加えることはできないという、この言葉は非常に重いものだと思っております。

殴る、蹴る、これはもう本当に体罰に当たるものでありますし、正座とか直立、これらも体に身体的危害を加えるものであるということで、体罰に当たるものであると自分自身では考えておりますし、ただ、じゃあ全てが全て本当にそれでいいのか、それで教育が進めることできるのかというところが、非常に難しいところだなという思いがいたします。

例えば文書の中にあった事柄の中には、放課後等教室に残留させる、ただし用便や何かに行かずことはきちんと認めなさいとか、そういうことも認められているし、食事時間を過ぎてもとめ置くとか、それから授業中、教室内で起立させることとか、それから学習課題や清掃活動を、ほかの子どもたちよりも少し多目に科すとか、こういうようなことは体罰とされないということであるんですが、ただ、先ほどから話の出ている児童生徒の年齢とか、健康とか、心身の発達状態から見ていて、本当にそれでいいのかどうかということが、今度は子どもの育ち、一人一人によって違ってくるといって、判断は非常に難しいものだと思っております。

一般的に私の考えだけを言わせていただくと、自分自身では体罰を行う指導によって学力が向上したり、それから部活での好結果が得られたりということは、あり得ないと思っております。今現在、一貫教育方針の中で、子どもたちに漢検の学習とか、それから英検の学習とか、それから海外派遣への挑戦とかというようなことで、いろいろと子どもたちのやる気を引き出す工夫を行ってお

ります。先生方にも、とにかく指導改善を求めますということで動いているわけですが、それらの動きが子どもにいかにかやる気を出すかということが、体罰以上の効果があるものだと思っております。体罰は、私はあってはならないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

教師の側について伺いますが、体罰については教師の側に生徒の人権を尊重する意識の低さや、その場の感情を抑制できない自制心、すなわちコントロールできないことが引き起こしているからと、教師の力量不足で片づけるわけにはいかないわけであります。

伺いたいことは、体罰は、今、教育長は言いましたけども、行ってはならないが、度を越した行為、かつ口頭による指導にも従わない児童生徒に対する指導については、どのように行えばいいの。また、教師の教育指導方法に関するバックアップとしては、どのように行えばいいのか伺いたいと思います。

議長（古畑浩一君）

教育委員会の皆様、もう少し答弁は簡潔にお願いをいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

学校にいる子どもたちですので、十人十色でいろんなことを考え、いろんなことをする、それが大前提だろうというふうに思っています。ただし、集団行動で物事をやるわけですので、集団行動の規律は守るということが、また大事な要素になるかというふうに思います。

そういった中で私たち教育委員会としては、教師の指導力を向上するための各種の研修会を行って一人一人、子どもたちにしっかり向き合えるような力をつけてもらうというふうに、対応してまいっております。そういう中で、子どもたちのやる気を引き出すんだという構えで、対応してまいっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

体罰というのは肉体的苦痛を与える懲戒ですが、心を傷つける言葉の暴力もあるわけであります。教師による不用意な言葉、叱るのではなく、感情に支配された怒る言葉など、心を傷つける言葉の暴力も防がなくてはならないと思います。こうした教師が発する言葉の重さについての指導を、どのように行っているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

確かに体を傷つけるという暴力だけではなくて、心を傷つけるという暴力もあるかというふうには思います。そういったことにつきましては、教師一人一人のまず自覚を高めること、子どもの人権を尊重するという意識を高めること、そういったことを含めて、これも年間を通した年次計画的な職員研修の中で実施しておりますし、学校でも、そういった指導を折々しているということでもあります。

また、県、国からも時期に応じて、そういった指導も参っておりますので、それを踏襲していくということで対応してまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

体罰については明確なものがない、教師の方々も戸惑いがあるのではないかと。今ほど糸魚川市の教育委員会としては、文書で校長から教師に指導していただく、また、調査を行っておるということですが、やはり体罰根絶のための全教職員に喚起を図り、部活動顧問に対しての会議も開催をするなど、人権を尊重し、信頼関係に立つ教育の推進を図っていただきたい。即、実行に移していただきたいと思うわけですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

今、議員がおっしゃるとおり、学校現場の市教職員も戸惑いがあるかと思えます。また、子どもたち、保護者、地域の皆様の中にも戸惑いがあるかというふうには思っております。

そういった中で、まず教師についてご提案いただきました。また、このことについては、非常に大事なことというふうには受けとめております。今後、時期を見て、そういったような研修をぜひ行っていきたいと、そんなふうに思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

糸魚川市の場合には、体罰については今認められないということですが、私から見ると、

実際には目に見えない数があるのではないかとことから、調査については十分慎重に行っていたきたいことを申し上げまして、次に移りたいと思います。

都市交流について。

まず、都市交流協会の会員の数、及び会員の増減状況についてと、3地域、糸魚川地域・青海地域・能生地域のそれぞれの会員数を伺います。なお、姉妹都市、友好都市、知音都市、それぞれが都市交流協会として事業を行っているのか、あわせて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

都市交流協会は24年度、総会が開かれておりますので、現在の会員数については個人で429、賛助団体が18団体であります。なお、地区別の内訳については、糸魚川が366名、能生が16名、青海が47名というふうになっております。なお、毎年20人から30人の脱会者、並びに新入会員というのがありまして、微増ではありますけど、ふえているのは若干でありますけど、大体横並びで推移しているような状況であります。

なお、都市交流協会は合併後、全部行動がまとまりまして、塩尻をはじめとする姉妹都市、それから新ひだか町をはじめとする友好都市、それから中野市をはじめとする知音都市ということで、3団体の活動が市民活動とあわせまして、この交流協会が全体を事務局として私ども事業実施させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それぞれ糸魚川市全体の会員増員の取り組みとして、まだまだアピールが不足しているのではないかなと思うわけでありまして。例えば都市交流協会割引サービスという、優待制度があることを知らない人が多い。これは市内の協力店が、会員証を提示するだけでサービスが受けられる制度で、ガソリンや飲み屋、そば屋にラーメン屋及びすし店など多くの協力店があるわけであり、青海、能生地域でもサービスが受けられるお店があるわけでありまして。また、スポーツや文化、市民活動団体が交流する場合は、5万円の補助が受けられる制度がある。都市交流協会の周知の強化が必要ではないかなと思うわけですが、取り組みについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

斉藤議員お話のとおり、条件によっては受けられる有利な割引制度がたくさんあります。今お話のとおり年2回、「都市交流協会だより」というのが多色刷りで、一昨年から少し刷新をしまして、いろんな情報が載っております。あわせて年1回の総会の際には講話とか、ちょっと気になる情

報というものをあわせて、できるだけ総会に参加していただくような工夫をさせてもらっております。

特に、中野市のバラまつり見学とか、あるいは塩尻市との姉妹都市での市民号、こういう事業実施については、かなりの会員の方が積極的に参加をされてます。お話のとおり、もう少し市内全体に周知できるような啓発活動を、しっかりしていかなければいけないのかなというふうに思ってます。また、5万円を上限としますけど、スポーツ団体との交流活動もありますので、これらもあわせてさらに啓発をしっかりしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

このたび飯山市と観光交流都市協定を結びました。そこでお聞きしたいんですが、姉妹都市の塩尻市と、観光交流都市飯山市との違いはどうか。というのは塩尻市の場合も、観光については締結のときにうたってるんですね。要は、塩尻市と観光のつながり、また、飯山市の観光とのつながり、この違いというのを教えていただきたい。

それから飯山市の場合、この観光交流都市、飯山市の都市交流協会への参入はどうなるのか。また、塩尻市と同様に、親善訪問市民号としても飯山市のほうに市民レベルの交流も行うのか、こちら辺、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

塩尻市との姉妹都市の関係は旧糸魚川の時代から、非常に関係者を含めまして長い歴史の中で、姉妹都市として市と、あるいは市民レベルでの活動を展開してきたものです。それらはしっかり尊重しなければいけないと思いますし、平成17年には防災協定というのを、それぞれに結んでおります。これらもあわせて、市民レベルでの活動がずっと定着しております。

飯山市のほうは、もともと能生地域のほうと海域の交流がありました。特に観光協会を起点とした、非常に民間レベルでの動きが底辺にあったというふうに考えております。その中ではプログラムの充実でツアー客の一部を能生地域の海水浴場、並びに海域の体験として送り込んでいただいた情勢もあります。

そういう中から、先方は当市に対して、社団法人信州いいやま観光局のレベルで最初に話がありました。ですから、市と市が最終的には協定を結んでおりますけど、新幹線延伸に先立ちまして、相互理解の中で共同にプロモーションを行って、それぞれの地域の持っていない部分を補完しながら、観光の交流人口拡大に一役を担いたいというお互いの協定であります。

そういう意味からは、少し意味合いに相違がそれぞれの地域であると思われるので、友好都市のように、あるいは姉妹都市のように、それぞれの市がそこに介在して、お客様を少し交流させるというよりも、民間レベルでの交流人口の拡大が、やはり飯山市のほうは基準になるのではないかなというふうに思っております。

それぞれ持っている部分を磨くことも大事でしょうし、持っていない部分を補完し合ってプログラムの強化、並びにお客様をしっかりと誘導するということも大事であると思いますので、それぞれに特徴があります。やっぱりそれをしっかりと生かしながら、個々に活用してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それと、この都市交流協会の中に、先ほど答弁があったんですが、姉妹都市、友好都市、知音都市が入ってる。どうもまだまだ合併して新しい糸魚川市として今活動を開始して、都市交流協会として1つになってやってるわけですが、どうも友好都市、要は旧青海町、それから旧能生町が今まで継続をしてきた交流関係、それからその知音都市交流、これも旧糸魚川市だけで、青海地域、能生地域の人と薄れている感じがするわけでありますが、今後、都市交流協会として、この能生地域、青海地域、糸魚川地域、それぞれの交流のお互い新しい糸魚川市じゃないかということで、交流の幅を広げるという取り組みについて伺いたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘の点については、非常に私も感じる次第でございまして、なかなか広がりがないのも現状であるわけでありまして、またちょっとそれを調べてみますと、塩尻市とは平成17年の合併後、再度、姉妹都市提携を結び直させていただきました。しかし、ほかの友好都市につきましては、相手方の合併があって、なかなかそちらのほうも、まだしっかりとまとまらないところがございます。そういう中で、今までのつながりを延長することで、この方向性を持っていきましょうということになっておるわけでありまして、その辺がやはり力の入らない1つの要因ではなかろうかと思う次第であります。

知音都市におきましては、少しこれは民間レベルでずっと進めてきた事業でございまして、しかし、これも長きにわたってやってきたところではありますが、少し弱体といいたいでしょうか、少し先細りになっている状態であるということで、この都市交流協会のほうで統合して進められないかというような形で、最近統合して入っておるわけでありまして、その後、まだ本当に一体となっていないのも実情であろうと思ってる次第であります。そのように、本当に三者三様の今流れになっておるのも現実でございまして。

しかし、交流人口拡大を目指す中においては大変重要でございまして、少しでもやはりつながりのあるところはしっかりとつなげていきたいと思うわけでありまして、知音都市におきましても今、相馬御風生誕130年を迎えるわけでありまして、これもやはり少し若い人たちには、ちょっとなじみが薄くなってきてるんじゃないかというところで、若い人たちにもやはりこれから少し広げていかなくちゃいけないという今感覚を持っております。しかしこれも今、長野市の知音都

市の会長とは、そういう話ができるんですが、他の2市とは、まだそこまではいってない状況でございますので、そういったところを広げながら進めていきたいと思ってる次第でございます。

香港とのジオパークでの交流、また飯山市の観光交流都市につきましては、今ほど課長が述べたとおりでございますので、そういった目的の中で進めさせていただきとるわけでございます。どうか我々としましても、本当に広げていきたいわけでございますが、なかなか相手もいることでございますので、こちらだけの思いも高くても、なかなか広がらないのも実情でございますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

都市交流について私が質問したのは、言いたかったのは、そのとこなんです。この後で香港について質問しますが、まず、一番この項のまとめとしては、私としては、今、市長が言われたとおり、やはり都市交流事業がマンネリ化、それから新しく糸魚川市としての都市交流協会としての位置づけをどういうふうにもっていくか。この辺について糸魚川市としては、やはりしっかりとした都市交流の指針というものを策定すべきだと思うわけであります。

といいますのも、だんだんだんだん交流する都市がふえてくると私は思っておることから、この指針、市長はこれからどうしようかということを考えてるということなんです、新しく都市交流についての指針、ジオパークについても、観光都市交流についてもこの指針を策定し、推進すべきだと思うわけですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

一くりに、交流・友好都市という形になっとるわけでございますが、その中でも、やはり大きなきずながあるわけであります。そのきずなを今ほど議員ご指摘のように、はっきりとした目的をもう一度明確にして、再度検討しなくちゃいけないんだろうと思ってる次第でございます、合併当時、そのような形でスタートし、それもはや、もう8年過ぎてるわけでございますので、やはりそういったところも再確認しなくちゃいけないだろう。そしてお互いに、どういう形で進めるかというのを、もう1回考え直す1つのきっかけでないかと思ってる次第でございます。

私といたしましては、やはりこの3.11、東日本大震災のときに、また再度、再確認されたように、きずなというのは大切でございます。どちらかというと、近いとこのほうが行き来がよくできるので、非常に強くしてきたわけでございますが、しかし、このような大災害があったときには、少し離れたところのほうが、非常にまた支え合える部分があるかと思うわけでございますので、そういったところをしっかりと、もう一度お互いに再確認をさせていただきながら、また新たな1つの目的というものを見出せば、そういうので展開を図りたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

では戻りますが、前にも聞いたんですが、ジオパークの関係、香港と今交流を姉妹ジオパークとして提携してるわけですが、ジオパークの再認定、糸魚川市になった。それから国のほうも、聞くところによると、ジオパークについて大分前向きな姿勢が見られるようになってきたということになると、香港だけではなく世界のジオパークの国からオファーが、これから出てくるのではないかと思うわけであります。

今、中学生が香港に行ってるという、交流を結んでるわけですが、まずは国際のジオパークの交流についての考えと、今後、オファーがあったときの糸魚川市としての交流の提携について、どのように行か、考え方を聞かせていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

香港ジオパークにつきましてはジオパークの理念、保護・保全・教育、そして地域振興、バランスが物すごく整っております。他のジオパークについては、これは世界なんですけど、そう多くはなかなか知り得ないわけでありまして、なかなかそれが見えない部分があるわけでありまして。

そのような中で、香港のほうから声をかけていただきました。そのときに我々が国際会議に行く中で知り得てる情報の中で、これは非常にお互いにためになるなという形で結ばさせていただきました。また、向こうも糸魚川というのは、日本の中でも選んできたということで、非常にそういった意味ではいい関係で今結ばれているわけでありまして。

ほかのところも来ておるわけでありまして、しかし中身を見ますと、まだそこまで達してないところがある部分があります。我々といたしましては、全てということではございませんが、ただ、ジオパークという中においては全国、または世界もジオパークという仲間は、そこでつながるわけでありまして、さらにそれより深く結ぶということになれば、何でもというわけにはいかないなと思ってる次第でございます。我々糸魚川市にもためになり、また相手にもまたプラスになるというものがなければだめだろうという中で、考えさせていただくわけでございます。基本的にはそのような中で、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

都市交流につきましては、今後ふえる可能性があるということから、再度、見直しを十分行いまして、考え方をしっかりして、再都市交流に向けて頑張ってくださいと思います。

それでは、4番目の糸魚川駅周辺整備についてに移ります。

糸魚川駅前銀座商店街振興組合は、何回かの話し合いの結果、組合員全員の承諾を得て、この

2月26日の総会において、アーケード再構築のため建設実行委員会の設立及び組織の強化を打ち出し、承認を受けております。駅前銀座商店街の並々ならぬ決意と意気込みを感じております。

ただし、意気込みだけでは新幹線開通を生かした駅前商店街の活性化をなし遂げられるものではありません。糸魚川市として、今、市長のほうからは、支援を行っていくという答弁をいただいておりますが、補助を含めアーケードの再構築による活性化についてのバックアップについて、もう少し具体的に教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員からお話がありましたように、振興組合のほうにおきましては1月11日の日に市のほうにおいでいただきまして、アーケードの再構築、それから地域商店街活性化法に基づく活性化計画の申請をし、認定をとるということ。それから3点目は、実施設計にはいるという、この3点について、全組合員から合意を得たという報告をいただいたところでございます。

市のほうといたしましても、今までいろいろとお話をお聞きしてきておりましたけども、ここで組合員全員が一丸となって取り組んでいただけるという意気込みを感じておりますし、本当に役員の皆さんにはご苦勞であったと思いますし、敬意を表したいところでございます。

今後につきましては、今年度、組合のほうが実施設計に取り組みますので、そこに対する財政的な支援、また、25年度中におきましては、地域商店街活性化法の申請を受けるべく、ソフト事業も含めて計画を練り上げるというお話もお聞きしております。その部分につきましては、市と商工会議所も含めまして、一緒になって計画の策定をご支援申し上げていきたいというふうに考えております。

その後、26年度にはアーケードの建設に入りたいということでございますので、アーケードの建設の費用につきましては、まだ具体的な数字は出てきておりませんが、市のほうといたしましては、今まで総合計画の実施計画の段階におきましては1億円の補助をとということで、実施計画上は検討させてもらっておるところでございます。今後も市と会議所と一緒にしまして、アーケードの再構築、それから駅前銀座商店街のにぎわいづくりに、ご支援申し上げていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

駅北商店街は、押上、寺町を抜かし駅前銀座商店街、本町通り商店街、広小路商店街、白馬通り商工発展会、中央通り協和会の5つの商店街があるわけですが、アーケードの再構築による駅前銀座商店街振興組合だけの問題だけでなく、やはり広域商店街としての活性化、取り組みが必要と考えるわけでありまして。建設産業常任委員会の中でも、一部報告があったようではありますが、今後、広域商店街としての取り組みを、どのように考えているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

通称、私ども口の字の商店街と言っておりますけども、今、議員がお話になりました5つの振興組合がございます。今まで長年にわたりまして、いろんなイベントに取り組んでいただいておりますが、なかなか集客につながっていないという部分も感じておるところでございますし、また、高齢化、後継者不足によるお店を閉じたというふうなこともあるわけでございます。しかしながら、新幹線の開業を捉えて駅北のにぎわいづくり、また、各個店の魅力アップを、さらに取り組んでもらうというふうな動きが、大変必要になると思っております。

駅北へのにぎわいづくりにつきましては、先ほど申し上げました駅前銀座商店街の皆さんの決意を受けまして、今後、駅北の広域の商店街の皆さんとも、にぎわいづくりをどのように進めていくかというところを、先般も一度会議をもたせてもらったところでございます。今後、広域を挙げて、駅北のにぎわいづくりに意見交換をしながら、創出に取り組んでまいりたいというふうに考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

まだ決定ではありませんが、従前のアーケードの4.5メートルから約3メートルに縮小の予定であり、県道系魚川停車場線でのイベントを含め、さまざまな活性化の取り組みが考えられるわけでありまして。駅前銀座商店街だけの問題ではなく、市としても新幹線開通を生かした、アーケードも含めた駅北のにぎわいも含めた中でのこの計画の策定、今後の方向性を決める必要があるのではないかと思うわけでありまして、この考えについてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、確かに今その場所につきましては、駅前銀座商店街振興組合の皆様方が、今まとめていただいておりますが、しかし、北陸新幹線の糸魚川駅としては非常に重要な位置でもあるわけでありまして、また、それを介して他の商店街にも波及する大事なところであると思っておりますし、我々といたしましても、やはりそれに対して、今、地元の方々は3部会を立ち上げて、その課題について取り組むと言われてるわけでございまして、そういったところにもやはり情報の連携をさせていただきながら、また今言いましたように他に波及するようなことを、その中に織り込んでいただきながら、一体感をもって連携をとっていききたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

空き店舗について伺います。

駅北商店街は、口の字について空き店舗が多くなっていることは見た目で見えるわけであり、シャッターが閉まっていることで見えるわけですが、ただ空き店舗が多くなっているということでは、いささかやっぱり至らぬところがある。実際に数値的に、その空き店舗の数というものはどれだけになっているのか、数値的に教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

5つの商店街組合の10年前と現在との営業店でご報告申し上げますと、10年前187店ございました。今現在では151店になっておりますことから、その差の30強につきましては、お店を閉じて、空き店舗になっているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それでは今まで市として、空き店舗のこの状況についての取り組みというのは、どのようなことをやってきたのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

3年ほど前までは、糸魚川の商工会議所が空き店舗を確保し、そこに創業の皆さんをお勧めするというので取り組んでまいりましたが、なかなかそのお店に集まっただけということが見えないという状況になってきましたので、昨年からはビジネスチャレンジ創業支援事業というものを立ち上げまして、空き店舗を利用して創業しようとする個人の皆様に家賃の補助でありましたりとか、お店の改修費でありましたりとかいう部分の支援事業に取り組んでおるところでございます。

ちなみに駅前さんでは1店舗、その事業を利用して創業を開始され、この土日には非常にお客でにぎわっているという状況もお聞きしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

33あるうちの1店舗、私としてはもっと力を入れれば、違うんではないかと思うわけでありませぬ。

個人的な話になるが、議長とも車の中で話していたんですが、例えば飯山市、これから観光都市交流を深めるわけですが、飯山市に限らず長野県からの観光物産や、長野県の食べ物、店舗、食べ物屋とか、そういうところにも視野を広げて、角度を広げて、ぜひ糸魚川に店舗を出してどうかという取り組みについては、いかがなものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

駅前銀座商店街の皆様は、これから地域活性化計画を樹立をされていくわけでございますけども、少しその中でも市のほうも意見交換の仲間に入れさせてもらっております。

その1つに、やはり今、議員お話のありましたように、空き店舗を活用していくという話が出ておるわけございまして、これからどんどん利活用についての意見交換をしながら進めていきたいと思っております。

また、先ほど田原議員の一般質問の中にもございましたけども、私も霜降商店街のほうへ行かせていただきました。その中で1つ目につきましたのは、空き店舗を使って地域のコミュニティ、人の集まる場所にすると。そんな利用もございましたし、2日、3日、あるいは1カ月の短期間を、地方の方に空き店舗を貸して物販をするというふうな実態も聞かせていただいていたわけでありまして、そのようなことも含めて活用を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

2月4日の日に、新幹線・港湾対策特別委員会で東京糸魚川会の人たちと懇談会をやったときに、東京糸魚川会の方々から、糸魚川市の駅前においしいお魚を食べさせる店が少ない。ぜひそういうおいしい食べ物を出す店を出していただきたいという要望が数多くありました。

今ほど齊藤課長は1店舗、今ある、にぎわいがある。にぎわいづくり創出計画で、今後、取り組みをやっていくということもあるわけですが、できるだけ糸魚川のおいしいお魚を食べさせるところも、空き店舗を活用していただくことによって、にぎわいが多くなるんじゃないかと思うわけですが、糸魚川市の商店の方々に取り組みのお願い、商工会議所関係なんですが、そこら辺の強化について伺いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に地元の特産、地元の特筆する農産、または魚を提供しておいでいただくということは、本当に我々も理想でありますし、望んでいきたいわけでございますが、今までなかったかということ、今まであったところがなくなったという状況を考えますと、本当に大変な状況であることは理解で

きるわけでございますので、そういったところを、どうしても我々は地元の産物をやはり提供すること、またそして食していただいて、楽しんでいただくことが大事でございますので、それからは絶対に外れられないと思うんですが、その辺を皆さんと共有しながら、どうすれば今言ったような要望に応えられるか、努力していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

ある人から、新幹線駅舎が完成すれば、自由通路も含めて北口、南口という名称になると思うわけですが、そうではなくて、そんなありきたりの名称ではなく、日本海側、アルプス側としたらどうかという提言をいただきました。確かに名称によりイメージががらりと変化することから、検討の余地もあると思いましたが。

そこで1つ、これはちょっと小さなことだと思うわけですがお聞きしたいんですが、市道仲町線、すなわち黒姫と花屋の間、今現在は、仮称みいちゃん通りとなっているわけですが、仮称であり、その後どういうふうになるのか。せっかくあの通りに道路を整備していただき、これから新幹線が開通することにより、またアーケードが建設することにより、にぎわいが出てくるわけであり、名称を決めてはどうかと思うわけですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

若干そのときの道路づくりに携わった者としてお答えさせていただきますが、今の正式の市道名は市道仲町通り線でございます。そういう中でバリアフリーとか、それから下水路をふさいで、人がにぎわいやすい道づくりというのを、そのときのまちづくり実行委員会を立ち上げた方と相談して、今の道を整備させてもらいました。

そのときに名前として、（仮称）みいちゃん通りという話もございましたが、これは例えば「春よこい」の中では、かわいらしいみいちゃんですが、例えばミーハーのときに、そのみいちゃんはどうなのかというような意見もございまして、正直、私どもが押しつけて決めるのではなくて、まちづくりの方でお決めになってはという話はしたんですけど、今に至るまで決定しないというのが、そういう状況でございます。

議長（古畑浩一君）

課長、アルプス口とか、ああいうのは前に決めたんでしょう。そこを聞いているんじゃないですか、提案してるの。南口、北口じゃなくて、もともと日本海側だとかアルプス口だとかにするって、ずっと検討してきたでしょう。それを教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

失礼しました。

その前段のほうですが、基本的には駅のデザイン、それから新幹線のデザインのと看も、北側は日本海側、それから南側はアルプスという形で、そういうコンセプトで機構のほうにもお願いしております。この辺は今、自由通路のサインージの中で、どういふ名前、南口・北口という名前と、それにあわせてアルプス・日本海側をつけるかというの、今検討してるところでございます。

議長（古畑浩一君）

金子課長、あなたは何回も北口を日本海側、日本海側と言ってるけど、日本海「口」じゃないの、「側」なの。そこいいの、ちゃんと答弁してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

失礼しました。

北口は日本海口、それから南側はアルプス口ということで検討を進めてまいったわけですけど、そのサインージの際に、その辺をどうあらわすかというの、今検討しとるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

終わりに。議会と行政は両輪の輪であります。それぞれ議員の考えは違いますが、行政側と一般質問や委員会で議論を闘わせることにより、最終的には、一番糸魚川市のために何が得策かを決定しなければなりません。

この4月から、議員数が20名になるわけですが、議員の資質向上により一般質問にて行政側と論議し、すばらしい糸魚川市に向かうことをご祈念申し上げまして、私としての一般質問を、これにて終わりにさせていただきます。

議長（古畑浩一君）

以上で、斉藤議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を3時5分といたします。

午後2時50分 休憩

午後3時05分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔2番 保坂 悟君登壇〕

2番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1 子育て支援について。

(1) 昨年12月議会で質問した子どもインフルエンザ接種費助成の検討結果についてどうか。

(2) 保育園の入園について。

入園許可されなかった方より、様々な声を頂いております。今後、入園希望者に対する入園資格の周知を丁寧にするべきと考えますがどうか。

求職中の保護者や家族の身体の状態等を調査した上で、入園基準の緩和が時代のニーズとありますがどうか。

(3) 保育園等の施設周辺の横断歩道などの安全対策はどうか。

(4) 昨年実施した学童保育のアンケート結果による改善点はどうか。

(5) 子育てマークの再普及の予定はどうか。

2 障がい者・要介護者を含む高齢者対策について。

(1) 通院や買い物の外出支援について。

デマンド乗合タクシーの実施エリアの拡大はどうか。

住居付近にスーパー等がない場合の支援はどうか。

(2) 常会役員や組長によるおしらせばんや広報の配布、募金等の集金について、高齢者世帯が多いところへの支援はどうか。

(3) 高齢者世帯の除雪支援について支援対象者の把握方法はどうか。

(4) グループホーム等の高齢者住居の施設点検についてはどうか。

(5) 高齢者世帯の増加が見込まれる本市にとって、今後は公民館等を中心に金融機関、食品や雑貨の商店、行政窓口などを集中させたよろずやセンターをつくるべきと考えますが、今から研究調査をすべきと思いますがどうか。

3 安心安全なまちづくりについて。

(1) 見通しの悪い交差点やT字路の交通安全対策について。

代表例として筒石地区の坂中屋旅館前の国道への出口について、対応が必要と思いますがどうか。

計画的にカーブミラーの設置を行っていますが、危険なところには積極的に設置数を増やすべきと考えますがどうか。

(2) 不審者対策について。

安心メールの不審者情報の迅速化はどうか。

女子中学生において、安全のために徒歩通学より自転車通学を希望する声があります。少しでも安全性が高まるのであれば、通学距離に関係なく導入してはどうか。

女子中高生に防犯ブザーの携帯を積極的に推進してはどうか。

(3) 昨年の豪雪を踏まえて冬季間の通学路点検を行うべきと思うがどうか。また、緊急車両の

通行確保はどうか。

4 私が考える重要課題について3期目を目指す市長の見解を求めます。

- (1) 高齢社会を見据えたごみ処理のあり方を研究すべきと考えますが、市長が理想とするごみ処理はどのようなものか。
- (2) 世界ジオパーク認定後の効果について、何がどう変わるのか今一度市民説明が必要と考えます。市長が目指す世界ジオパークの完成した姿とはどのようなものか。
- (3) 世界ジオパークばかりでなく、観光・スポーツ・文化・釣りなどあらゆる分野で交流人口拡大を図り、外貨稼ぎを積極的に行うべきと考えます。そこで、自治体間競争に勝つための具体的な取り組みはどうか。
- (4) 当市のエネルギー施策として、太陽光発電と木質ペレットストーブ・ボイラーの普及計画を策定すべきと思いますが市長の考えはどうか。
- (5) 医師修学資金貸与制度や看護師確保策の提案を実行していただきましたことに心から感謝しております。そこで、その成果についての評価はどうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子育て支援のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、道路輸送の公共交通は、原則、路線バスで当たりますが、それを補完するために乗合タクシーやコミュニティバスを、エリアを定めて1週間に1日運行いたしております。今のところ経費面や利用状況から、エリア拡大の予定はありません。

2つ目につきましては、地域ごとで商店や移動販売などの状況に違いがあり、それぞれの地域によってどのような支援がよいのか、現在検討を進めております。

2点目につきましては、自治会等の役員は、それぞれの自治会で選任いただくことを基本といたしております。高齢化等により役員のなり手がいない場合は、ご相談に応じてまいります。

3点目につきましては、民生委員の協力を得て把握を行っております。また、広報等でも制度の周知を行い、本人や家族からの申請により把握も行っております。

4点目につきましては、先日のグループホームでの火災を受け、各施設には防火安全体制の徹底と点検を依頼いたしております。また、今月5日から8日にかけて職員がこれらの施設を訪問し、現地での点検を予定いたしております。

5点目につきましては、公民館制度の見直しにより、地区公民館はコミュニティや地域づくり活動などの役割を担う拠点施設でもありますことから、地域ごとの課題を整理し、どのような取り組みが必要であるか、調査研究を進めてまいります。

また、郵便局においても地域社会貢献として、買い物支援サービスや高齢者の見守りサービスなどの取り組みを検討しており、それらの取り組みとの連携についても検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、自治会や交通安全協会など地域からの要望をお受けする中で、警察をはじめ道路管理者と現地確認を行い、カーブミラー設置などの交通安全対策に取り組んでおります。

2点目の1つ目につきましては、警察からの不審者情報が入り次第、メール配信を行っております。

2つ目につきましては、自転車通学の距離の緩和により交通事故が増加する懸念もありますことから、導入には課題があると考えております。

3つ目につきましては、小・中学校には防犯ブザーを配布しておりますが、高校生への配布は今のところ考えておりません。

3点目につきましては、危険箇所の早期発見と対応のため各学校や地域の協力を得ながら、道路管理者など関係機関と連携をいたしまして、安全確保に努めております。

また、緊急車両につきましては、除雪業者の協力により応援体制をとり、通行確保に努めております。

4番目の1点目につきましては、資源の有効利用と環境に与える影響が少ないまちとなるよう、まずはごみの減量を図っていくことが必要だろうと考えております。そのためには市民と事業者、そして行政の協働により、循環型社会に対応した分別と適正な処理、処分を推進していくことが、ごみ処理のあり方の理想と考えております。

2点目につきましては、市民がふるさとに誇りと愛着を持ち、魅力ある糸魚川市になるとともに、それぞれのジオパークと交流が盛んになり、糸魚川市が活性化することが目指すべき姿であると考えております。

3点目につきましては、ジオパークは広く多様性があり、本市ならではの自然資源、人文資源や食などを活用することにより、交流人口の拡大が図られるものと考えております。

4点目につきましては、25年度に策定するエネルギービジョンの中で検討していきたいと考えております。

5点目につきましては、医師は現在1人、看護師は本年度8人が糸魚川総合病院に勤務するなど、成果があらわれているものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、来年度も引き続き今年度と同様に、13歳未満の子どもを対象に、半額助成をしております。

2点目につきましては、現行の入園基準により対応してまいりますが、入園希望者には入園資格をわかりやすく周知するよう努めてまいります。

3点目につきましては、安全対策を含めた施設周辺の状況を把握し、対策を講じておりますが、

さらに保護者会からの要望をいただく中で、対応してまいります。

4点目につきましては、利用料金の口座振替の実施、指導員資質向上のための研修会やマニュアルの作成等に取り組んでいるところであり、開設時間の延長につきましては、今後の検討課題であります。

5点目につきましては、県のおもいやり駐車場制度の取り組みと連携しながら、普及を図ってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

それでは最初から1番の子どもインフルエンザからお伺いします。

新年度予算では829万円を計上していますが、対象者は今ほど言ったように13歳までの半額助成ということではありますが、平成22年度、23年度の1歳から18歳までの対象は、全国的に見てもすばらしい取り組みと評価しておりました。前回12月議会ですかね、新年度には、社会情勢を見て対応すると回答しておりましたが、この予防をしていくという意味では、社会情勢というのはなじまないと思うんですが、今後これを恒久化した制度として取り組むべきだと思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

来年度のインフルエンザの予防接種につきましては、医師会に相談をさせていただきました。その中で医師会のほうより、やはり13歳未満の子どもたちの重篤化を防ぐことが最も大事だということと、負担軽減ということも大事であるというご意見をいただいております。こども課といたしましても同様に考えるものであり、継続をしていきたいということでございます。

恒久化ということにつきましては、子どもの健康を第一に考えるところでございますが、来年度の実施ということで考えてまいっておるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

確認させてください。今、継続という言葉を使っていたんですが、毎年毎年、検討して決めるというやり方なのか、もうずっと今の13歳未満の対応でずっと続けていくということなのか、そこだけはっきりさせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

その年々の状況もあろうかと思しますので、医師会等ともまた相談、検討させていただきながら、子どもの健康を第一に考えてまいりたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今シーズンといいますか、ことしに関しては秋の時点で、医師会の要請によって1回当たり1,500円の助成をしたことによって、糸魚川市においては比較的インフルエンザの拡大には予防ができたんじゃないかなと私は思っておるんですが、何せその年によってインフルエンザの拡大の仕方が違うもんですから、そういった意味でも、やはり予防強化ということで、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思いますし、あくまでも、何遍も言いますが、先進地的な取り組みなので、自信を持ってやっていただきたいと思います。

続きまして、保育園の入園についてであります。

利用希望者にとって、入園資格の認識は薄いことを前提に、今後周知を行っていただきたいと思いますし、人によっては保育園は無条件で入園できると思われています。周知方法についてですが、保育に欠ける状態をパターン化して説明する必要があります。同居祖父母の年齢と就労状況、自営業で家族が社員化されてない状況、また、同居家族の病気や障害の程度など身体的状況など、これらのように入園希望の申請の際に、家庭状況をできるだけ詳しく書いていただくか、聞き取りをぜひ行っていただきたいと思いますし、その辺の改善方法としていかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

確かに議員がおっしゃられるような、受けとめる側にしてみると、ややわかりにくいという表記もあろうかというふうには思っておりますので、今後できるだけわかりやすい表記となるように考えて、対応してまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

利用者にしてみれば、当然入れるであろうと思って希望を出したときに、入れませんという通知が来ると、かなりショックを受けて動揺されてるケースが多いです。そういうふうにならないよう

な対応を、ぜひお願いいたします。

あとちょっと具体的な項目になりますが、入園の希望提出時に無職であると入園資格というのは発生しないと思うんですが、入園前までに就職の見込みがあれば、入園できるという形でよろしいのか、その辺、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

就職が決まれば入園を認めるというところではありますが、求職中であるということであれば、入園を受け付けるという状況になっております。求職中で入園を受け付けた後、就職が決まれば入園をしていただくということになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そこでのタイミングなんですね。11月の時点で求職中で、例えば1月に採用になった、2月に採用になった3月に採用になった。でも通知はたしか1月か何かに来るのかな、許可の通知が来ると思うんです。その辺をやっぱりはっきりしておかないと、そこも誤解を与えると思うんですが、その辺、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

1月に一度、入園の案内をさせていただくわけですが、その後、今のような入園の条件が整えば入園を受け付けておりますので、その時点で入園を許可していくというふうにしてまいっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ちょっと今わかりにくい回答だったんですが、決まれば入園できると。逆に今度は入園前に就職が決まらない場合についての対応としては、制度的には一時保育を使うということになるかと思うんですが、それに関して言うと、あくまでも求職活動をしてるという場合であれば、明らかにそういうのがわかれば、受け入れ期間とか、料金とかの軽減が必要ではないかというふうには思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

これまでも求職中については、一時保育を利用していただきました。週3回の利用になっております。当面、今の状況を維持してまいりたいと、そんなふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今の一時保育ですと、長期にわたって利用するとなると、ちょっと高いのかなという気もしますので、先ほども言いましたように、明らかに求職中であるというのが見てとれる場合には、多少の軽減措置というのもし検討いただきたいと思いますので、要望しておきます。

次にいきます。今度は（3）になります。

代表例として聞いていただきたいんですが、私の地元の大野保育園のように駐車場と園舎が道路を隔ててある場合に、子どもを連れて歩くとき、特にお昼寝用の布団を運ぶときなどは非常に危険になります。道路の色をかえるとか、大き目の標識を設置するとか少し工夫をしていただいて、車とかバイクに乗る方にもうちょっとアピールできるような、そういう手だてが必要かなと思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

園の安全につきましては、園の保護者会のほうからのご意見をいただいたり、要望いただいているところでもあります。そういったものについては、できるだけ可能な範囲で対応してまいりたいというふうに考えております。

今ほどの子どもがいますよという道路の看板ですとか、路面への表示等については、できるだけ対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

それで、また同じ保育園なんですけど、大野保育園ばかりではないんですが、各保育園、幼稚園の周辺道路で、やはり時と場合によっては、皆さんお仕事を急がれてたりとか、あと若い方は、ちょっとスピードの出る車とかに乗っておられると、少しスピードを出したまま走ってしまうケース

があるかと思うんですね。そうした場合に、もし保護者から要望とかがあったときには、防犯用のカメラを設置して、少し抑止力を働かせるとか、そういった取り組みをぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

確かに今、議員がおっしゃられるような要望もございます。どういった方法がいいのか、また検討しながら、子どもたちの、また保護者の安全確保をしてみたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

どういった方法と言われてしまいましたけど、一応提案してるんですから、それを検討していただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

次、（４）番にいきます。

昨年実施しました学童保育の実施アンケート調査の結果を見せていただきました。利用者の本音が見える詳しい内容であり、透明性のあるすばらしい結果公表として評価させていただきます。

現場の指導員をはじめ市の職員と保護者、また、第三者に広く知っていただく内容であったということで、今後、保育サービスがおのずと向上するというふうに確信しております。

先ほどもちょっとご回答いただいたんですが、もう少し具体的に今後の糸魚川市の学童保育として、今言ったマニュアルの内容であったりとか、納付のことだとか、もう少し詳しく担当のほうからお答えいただければと思います。こういうことを改善していくんだということを、再度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

指導員の資質向上というものが、まず第１にならうかなというふうに思っておりますが、そういったものについてはリーダー会議とか、または救命講習会、または指導員の研修会等で指導力を向上していきたいというふうに思います。

また、マニュアルの作成などございますが、多様な子どもたちがおります。その多様な子どもたち、また個のニーズに応じるような場合に、どういうふうに対応したらいいかという基本的な事柄をマニュアルの中に入れていくというようなことを、１例でございますが、考えて今作成を進めているというところでございます。

あと保護者のほうからのことではありますが、開設時間を延長してもらいたいという希望もござい

ます。それから保育園と同時刻に迎えに行けるように配慮してもらいたいというようなこともございました。そういったことについては、今後検討をしてみたいというふうに思っていますし、利用料金の口座振替についても、今、関係機関と調整をしております。今後その調整が済み次第、切りかえていきたいものだというふうに考えているところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

1点だけ要望しておきます。今回、アンケートをとっていただいたんですが、毎年は言いませんが、やはり利用者がかかり変わっていくもんですから3年に1回とか定期的に、実態の調査というものをした上で、学童保育のサービス向上を目指してやっていただきたいと思うんですが、これは要望にしときますので、ぜひお願いいたします。

次、（5）番目、子育てマークについてであります。

これは一昨年の予算委員会でも指摘しましたが、初期に貼ったところに、また再度貼っていただきたいと思えますし、やはり利用者の声として、お母さんがやっぱり一人で買い物とか行ったときに、子どもを抱きながら用事を済ますときにマークがあると、非常に安心して使えるという声なんですけども、先ほどやられると言ったんですが、いつごろ、どのような形でそれをやっていただくのか、その辺を確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

県のほうで進めております思いやり駐車場制度、それから当市が行っております子育てマーク、利用の面で重なる部分もあるわけではありますが、そういったところの調整をしながら、今後、利用者にとって、より有効な駐車スペースの確保ができるようにしてみたいというふうに思っております。期間については、今後調整しながらということで、ご理解をいただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そこまでやるという覚悟が決まっているのであれば、5月にやるとか、6月にやるとかと言ってもいいと思うんですけど、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

それぞれの事業所の対応も、今現在、進んでおるかというふうに受けとめておるところであります。その他の場所についても、また実態を調査しながら対応してまいりたいというところがございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

これ以上突っ込みませんが、どうせやるなら歯切れよく言っていただいて、相手がいるというのであれば、それはそれでいいですね。でも5月の段階で取り組みをして、10月までには全てのところで設置するとか、何かそういった回答をしていただかないと、何かやる気があるのかなのか、やっぱり見えないんですね。そこはぜひ気をつけていただきたいと思います。ぜひ新年度中には、じゃあ改めて設置をしていくということでご理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

何回も繰り返して恐縮なんですけど、実態をしっかりと把握しながら、また利用者の状況も把握しながら、対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

大変喜ばれているマークですので、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、大きな2番の障害者・要介護者を含む高齢者対策についてであります。

（1）の通院や買い物の外出支援ですが、これも代表例としてちょっと聞いてほしいんですけど、美山にある原山団地には多くの今、高齢者がおります。日曜日には、フォッサマグナミュージアム行きのバスが走っておるんですけども、平日はないということで、このようなケースというのは、市内でもほかにあるかと思うんですが、集落単位で高齢者の滞在率を1回調査していただいて、コミュニティバスがいいのか、デマンド乗合タクシーのサービスがいいのか、ちょっとその状況によるんでしょうけども、再度こういったことを、高齢者の滞在率というものを調査して、そういう交通の確保というものを検討すべきと思うんですが、その辺、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今運行しております、いわゆるデマンド型タイプのバス、コミバス、そういうものについては地域の声を聞きながら、それから路線バスについても各交通会議や、それから地区の意見を聞きながら運行しております。ない地区につきましては、なかなか経費の関係、それから本当に乗られる方がおるのかというものを含めて、生活路線を担当してる者と、基本的には地域づくりの中で、こういうものが必要だという意見をすり合わせる中で、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

であるならば、その利用の実態調査をやっぱりしなければいけませんよね。皆さんの中で検討されるのはいいんですけども、やっぱり声を聞くなり、実際に走らせてみて利用者がどうだったかとか、そういったことをしないと多分見えてこないと思うんですが、それはあれですか、鶏と卵の論になりますかね、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には路線バスなり、こういうデマンド型バスを走らせるときは、一応、公共交通会議の中で地域の声を聞いて、いろんなダイヤ編成等を行ったり、また変更等を行っているところであります。

ただ市内の中には、やはりこういうものの恩恵を受けられない地区もありますが、その辺はやはり地域の中で、こういうものが必要だという声を聞きながらということになりますし、なかなかそういう地区、今デマンドなり、コミュニティバスを走らせているところでも、路線としては存在しますが、やはり1年間、誰も乗らないというところもありまして、正直言って、どこでも有効に走らせるというのは、なかなか簡単なことではないというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

保坂議員の次の 番も関係する話なんですけれども、単にそれじゃ公共バスをふやせばいいのかという問題の一面だけを捉えますと、それはそれでももちろんいいことなんですけれども、今、地区の高齢化実態調査の結果もあるんですけれども、事、今買い物とか通院とかに限った実態調査の詳細にはなっておりませんから、詳細についてはまだ、やはり再度、目的を持った調査をしていかないと、実態調査にならないんだろうと思います。それは今後実施をしていきたいと思っておりますけれども、高齢者が一番困っているのは通院、買い物というふうにありますけれども、もう1つは預貯金のことだろうというふうに思います。ですから、特に中山間地にお住まいの高齢者の方で、一番心配になるのは買い物、通院、預貯金、この3つなんだろうというふうに思っています。

そうしますと、保坂議員の5点目の質問にも関係してくるんですけども、またそこでご質問にはお答えしたいと思いますけれど、これらをうまく要望に応えるためにはどうしたらいいかということ、今、庁内の関係する課で検討会がスタートしておりますので、もう少し時間をいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ありがとうございます。今、本当におっしゃられたとおりで、私が懸念しているのは、まさしくそのとおりで、通院、買い物もできにくいと。

番のほうにいくんですけども、以前スーパーがあったこともある田海地区とか大和川地区の方からは、やっぱりスーパーがないために買い物に困っているという声をよく耳にします。もちちん、中山間地においては同様なことが言えてますし、行政がスーパーの設置をするわけには、直接いかなと思いますけども、いわゆる健康づくりとか、サークル活動、また温泉に行っていたとか、そういった外出支援と抱き合わせにした買い物支援とか、今の預貯金の関係のそういった支援というのをやっぱり検討すべきだと思いますし、あと、また行政は今度はスーパーとか小売店、宅配業者等と協力して、移動販売とか注文配達方式の買い物支援策なんかも、今後、高齢化が進むこの糸魚川にとっては、このひとり暮らし、高齢者世帯の安否確認業務も兼ねた中で、そういったものもやっぱり総合的にやっていかなきゃならないと思うんですね。

今検討されてるというんですけど、それはどういうタイミングで、どこで結果を出して、どういった手だてをしていくのかという、その辺までのスケジュールみたいなものがあれば、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1つの事柄をとって、それで全部対応するという事は、なかなか難しいわけでありまして、市民生活の中、そして高齢化社会の中で、どのような市民生活を送る中で課題なのかというのを検討する中で、行政だけではできないと思ってるわけでありまして、今やはり我々は公民館単位で、いろんなものを今進めてるわけでありまして、いろんなことを考えていただきたい。ただ、行政にこの課題の処理をすればどうかというような形だけでは、なかなか解決できないものがあるわけでありまして、地域のやはりエリアだとか、そこに住んでおられる人数によってもいろいろ変わってくるわけでありまして。その辺をやはり考えていかないと、1つの事柄だけで処理はできないということで、今行政としても、これからいろいろ論議する中で、そういったところに、またご提案もせないかなだろうし、また、連携し、協議をしていただかなくてはいけないだろうと思ってるわけでありまして、今まで路線バスやいろんなことをやってきましたが、なかなかそれが実行されて効果が上がってないというのが、やはり大きな課題であると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ちなみに確認ですけども、今まで市が一生懸命デマンド方式とか、コミュニティに取り組んできた。そういう結果みたいなものは地域に、こういう状況ですよというのをフィードバックして、またご意見とか伺っているもんなんではないでしょうか。その辺ちょっと確認だけお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

行政懇談会の中のご意見だとか、また、いろんな地区の要望の中で、そういうものが上がってきておりますし、そういった中で、これからは足を確保すればいいのか、また、逆に企業や商店の皆様方と連携して、その注文をとりながら、そういったところで取りまとめていただけるのか、そういうやっぱりいろんなやり方があるだろうと思うわけでありますので、その辺をやっぱり根本的にやらないと、1つの地域からご意見を聞いたなら、それを全部聞いて、すぐ市内全域にとっていけるかといったら、違わだろうと思ってますので、地域でやれること、そしてまた高齢化社会の中で、どういうものが必要なのかという、1つのやはり公民館単位でものを考えていかなくちゃいけないのかなという、最低でもそれぐらいのエリアの中での取りまとめというのを、また連携をとりながらしていかなくちはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今ほど市長のほうから、公民館単位という言葉をいただきましたので、今どうのこうのではないんですが、また庁内でしっかり検討していただいて、この糸魚川市に住む高齢者が安心して暮らせるような対応を、ぜひ研究していただきたいと思います。

続きまして、今度は（2）ですね、高齢者世帯が多いところでは、有料にしてもいいから誰かに配布物を頼みたいという声が出ております。一度そういったところの実態調査を、委託配布を含めて検討すべき時期にきてるのではないかというふうに思いますので、先ほど各自治会の中において対応、相談に乗りますということなんですが、行政のほうから、そういった実態調査をする考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

各地区の懇談会や何かで、ご意見をいただくというようなこともあるところではありますが、なか

なか我々のほうから、今そういった状況をお聞きするということは、できてきていないというふうに思っております。ただ、ご相談等があった場合に、郵送による広報の発送とか、そういったことの取り組みは現在もやっておるということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

つけ加えさせていただきますが、例えば今、我々その指導に対しましては、嘱託員制度を使っておるわけでありまして。それに対してそれなりのまた、それは合う合わないは別といたしまして、手数料をお支払いさせていただいておるわけでございますので、逆に今進めておる公民館制度の中で、地域のコミュニティという形の中で、大きいところはできないかもしれませんが、コンパクトなところは、そういう対応もその中でできるのではないかな。いろんなやり方を、これから検討していただきたい。ただ一方的に、困ったから何とかしてという形じゃなくて、じゃあそのエリアとしたら、そういったいろんな地域経営ができるんじゃないとか、いろいろ対応できる部分もご検討いただきたいなど。今前段でも言いましたようなものとあわせて進めていただければ、ありがたいなと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そう取り組んでいただければ私もいいんですけど、ただ、私がお聞きする高齢者の声としては、その地区に10世帯ぐらいあると、もう6軒ぐらいの方がもう高齢者になって配布活動ができなくて、若い人に結局頼んでしまうと、若い人は4軒ぐらいしかなくて、そこに集中してしまって心苦しいし気の毒だという、そういう声もあるものですから、自分も配るのは大変ですし、若い人たちに全て丸投げしてしまうのも何か心苦しいという、そういう声があるものですから、そういったところもしっかり酌み取っていただいた対応をしていただきたいと思います。

続きまして（3）番、除雪支援は、世帯の家族構成や年齢で決められていると思いますが、家族の身体的状況や病気の有無、また、精神的安定状況など、よくよく家族の中身をよく知らないと、間違った対応になってしまうかなという心配がありまして、その辺、先ほど民生委員の方ですかね、確認とってるとのことなんで、その辺を再度、もう一度その辺の把握の仕方を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

先ほど答弁いたしましたように、民生委員さんのほうに確認をさせていただいております。また、いろんな所得要件につきましても、事前に民生委員さんにお渡しいたしまして、確認をさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

この場合は冬期に、冬のシーズンが始まる前の時点でそういう確認をとられるのか、体が急変した場合に、その家族の状態が変わった場合とかも、そういった対応というのは、どのようになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

当初は雪が降る前に確認をさせていただいておりますが、またその後、急変した場合は、民生委員さんを通して、またご相談をいただきたいというふうに思っております。直接でも結構でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

続きまして、（４）番のほうにいきます。

先月ですか、たまたま訪問した施設で、能生にあるグループホーム桜木荘というところで、ある方から照明器具の点検や、交換がしてもらえないというような意味合いの声がありました。また、そのお部屋の入り口の少し上のところに分電盤というんですかね、配電盤というんですかね、ドアのちょっと上に、そういったものが設置されておまして、ドアの開け閉めをすると、そういう振動が伝わるので、ちょっと心配だという声も伺ったんですが、先ほども答弁がありましたように、最近では施設の火災などが出ておまして、ちょっと心配なものですから、その辺の照明器具の点検、また配電盤の位置、そういう振動によるねじの緩み等のそういったチェックは、どのようにされているのかお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

その件につきましては、私のほうでちょっと把握しておりませんので、確認をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

確認してないということで、どうしようもないんですけども、ぜひ。その照明器具がずっと、入居したときから全く変わってないんで、いつもカチカチやるもので、それが不安だということと、今ほども言ったように配電盤がドアの上にあるので、設計上問題なかったんでしょうけども、やはり開け閉めをすることによって、そういったものに不安というのがあるそうなので、その辺もチェックしていただきたいと思います。

続きまして、（5）番です。平成17年度に大野地区で行った市長懇談会の際の、何遍も引用しますけども、米田市長の言葉に、高齢化率の高い糸魚川であるからこそ、高齢社会の先進地を目指したいと言った言葉が、私、すごく印象的に残ってまして、3期目の公約になるのか、目指すものになるのか、この高齢者対策について市長はどういった考えをお持ちなのか、その辺をちょっと伺いできればと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全体的に今質問の内容からして、そういうご質問だろうという判断をさせていただきますが、やはり基本的には、私が今言ったように、いろんな市民の足を守るためにバスのダイヤ改正もさせていただいたり、いろんなことをやっているのは、全てそれに向かっていっとるわけでありまして。そしてなおかつ高齢になっても、やはり地域のふるさとに愛着と、誇りを持てる地域にしていきたいということで、今進めさせていただいております。それについても、やはり基本的には協働の社会が必要だろうという形の中で踏ん張っていただいております。それに対しての成果を、ぜひ出していきたいという気持ちで進めていきたいと思っております。

福祉部門につきましては、精いっぱいいろんな対応をさせていただきたいわけでありまして、そういう中でお互いにやれる範囲はやっていく。それがやはり健康にもつながるんだというところを、お互いに連携をさせていただきたいと思っております。高齢化だから、全て行政でということにならないようにしていただきたいと。またそういったことが、先ほど言いましたように健康づくりにつながるわけでありまして、そういったところもまた理解していただきながら、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ぜひ今、市長がおっしゃられた方針なり考えで、市民にしっかりそれはやっぱりどんどんアピールしていくべきだと思います。やはりお互いに協働していかないといけないでしょうし、また、本

当に困った人を助ける手だてのために、よく市長が使う選択と集中だと思うんですね。本当に困った人に集中的に支援ができるような、そういった高齢者対策をぜひお願いしたいと思います。

次、大きな3番です。安心安全なまちづくりについてであります。

見通しの悪いT字路のほうに移りますが、代表例として、その筒石地区のことを挙げましたが、ほかにもT字路とか変形T字路といいますかね、そういうところが国道沿いにありますが、特に海沿いで、ミラーに塩がついてミラーが見つらいとか、信号機の設置が理想なのかもしれませんが、なかなか費用もかかるし、それがつくことによって交通の流れを阻害してしまうという理由もあって、なかなかそういうのはいかないんですけども、それでも何とかそういうカーブミラー等の設置を積極的に進めて、また、曇らないようなミラーがあるのか、ちょっとわからないんですけども、そういったものを沿岸線には設置するとか、そういった工夫のご検討をいただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

カーブミラーの件ですけども、それぞれ国道、県道、市道に、今それぞれついとるわけですけども、それぞれの道路管理者において、それは管理しておるわけです。

それと海岸沿いあるカーブミラーは、どうしても塩が飛んできて真っ白になるということで、それは道路管理者のほうで定期的に清掃しなければならないもんだと思っておりますし、危険な箇所カーブミラーを設置するというのは、交通事故防止にもつながるわけですから、積極的に設置していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

これはこのぐらいにしておきます。また地域から要望があったら、積極的に対応をお願いいたします。

次に（2）番、不審者対策についてであります。

市民からの情報をより早く入手できるように、日ごろから情報提供を速やかに行っていただけのような働きかけというのは必要かなと思います。それはなぜかと言いますと、安心メールとかで見ると、どうしても日時が少したってから情報が来るケースがあるもんですから、警察も当然ですけども、また市民からそういう情報が、すぐ警察に行くような呼びかけというのが必要だと思うんですが、その辺の働きかけをお願いしたいんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

確かに今の不審者の情報については、1日おくれとか2日おくれになるということが、ままあります。それについては、やはり当事者がその日のうちに例えば親御さんだとか学校に報告できなくて、翌日、落ちついてから報告するといったようなケースがございます。そうすると、どうしても1日おくれになるというケースもございますし、警察のほうでも、その報告を受けた事実関係をまず確認し、それから要は、それを出してもいいかどうか、ご本人、もしくは保護者にまず了承を取ると。その後、捜査に支障をきたさない範囲で、また、プライバシーの保護を優先した後で、情報をくれるということで、どうしてもその辺、ちょっとタイムラグがあるということがございます。

ただ、そうはいいましても、できるだけ早く、やはりそういう情報については、流していきたいというふうに考えておりますので、また警察のほうとも協議をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

なるべく早くとしか言いようがないんですけども、ぜひお願いいたします。

続きまして 番、女子中学生の徒歩通学よりも自転車通学ということで、保護者の方からこういう声が上がったんですけども、事故がふえるというような見解があったんですが、再度この辺。

今までの概念にとらわれないで、対応を少し前向きに取り組んでいただければと思うんですが、再度その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

中学校の自転車通学につきましては、各学校ごとに立地の条件とか地域の地形等、学校からの距離を定めております。青中と糸中につきましては2キロ以上、それから東中と能生中につきましては1キロというふうに定めております。

この緩和ということでございますが、今、中学生の中でも、結構自転車による事故といいますが、多く発生しているというのがあります。この緩和ただけで、果たしてこの不審者対応ができるかという問題もあります。緩和して、自転車に乗っておるときにも不審者に会った。その場合に、またそれに伴う転倒等の危険性もあるのではないかと。そんなことで、これについてはまだ課題というふうに受けとめておまして、検討の余地があるというふうに思っておりますが、学校では生徒指導としては、複数で帰るとか、細い道や暗い道を避けて明るい大通りを通る。大声を上げる。それから近くの民家等に逃げ込むとか、防犯ブザーの携行と使用を促す。あと警察と連携して、またパトロール強化、あるいは地域・家庭と連携して見守りを強化するという方向で、今進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今ほどの回答というのは、これまでもずっとやってきとるんですね、ずっと。不審者のこの情報というの、かなり前からいろんな委員会とかでも声が上がってきとるわけですね。保護者は少しでも防犯になるのではないかという、これが決め手になると私も思ってませんよ。だけど、ここまて言わせしめてる背景があるということなんです。今の同じ答弁で、そういう気持ち。だから検討して、検討した上でどうかというのは、それは確かに、保護者の話とか学校の話とかいろいろあるかと思いますが、やらないうちから、やらないようにしむけるような答弁されると、ちょっとどうなのかなと思うんですね。やったらいいじゃないですか、保護者と話を。したんですか、して今言われてるんですか、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

実際に今このご質問がございまして、学校等といろいろ協議した中でございまして、課題があるということで、やる、やらないという結論ではございまして、ご指摘のように、また学校等とも協議しながら、これについては、まだ今現在、雪の降雪時で自転車に乗らないわけですが、春に向けまして検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

答弁としては、それが正しいと思います。提案しているものを、やっぱり具体的に話し合った上で、その上でこうでしたと言われるのであれば、それはそのとおりだなと思います。ただ、保護者からこういう声が上がっているの、いつときでも検討すべきという、そういう認識でお願いいたします。

防犯ブザーのほうはいいので、次に（3）番ですね、去年の豪雪を踏まえてのところであります。

雪のない季節の点検ということで、昨年、国主導で5カ所の道路整備が進むこととなって、私は大変喜んでおります。しかし、この雪のある季節の通学路については、特段対応がされたということとは聞いておりません。文科省の通学路交通安全確保に関する有識者懇談会意見の取りまとめというのがあるんですが、ここでも全くこの雪のことに触れたことがないんですね。当然、雪のないところが多いのかもしれませんが、少なくとも県、糸魚川市にとって積雪時の登下校が大変であるような対策というのは、具体的にどのようにされているのか。また県から、今度は降雪期の通学路対策に何か予算措置とかがもしあるのであれば、そういったことをお伺いしたいと思うんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

昨年、一斉の通学路点検を行いました。ただ、冬期間につきましては今のところ、まだそういう一斉の点検をしておりません。これは降雪は日々変わる、時間によって変わるわけですが、特に学校はその通学路につきましては、常に把握しておることがございます。

それで何か通学路で問題とか危険箇所があったら、直ちに教育委員会に連絡が来まして、それとまた教育委員会では道路管理者等と、その対応について協議して、即座に危険箇所を解除できるような対策をとるということで、場合によっては、当然現場を見に行くときもあります。基本的には学校や地域からの素早い情報に基づいて、対策をとっておるのが実態でございまして、予算的には、県からのそれに対する予算はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

積雪によって見通しの悪いところとかに、あと道幅が雪があるために狭くなるところに、注意を促すような標識とかポールとか、除雪用じゃなくて通学路ですよという、子どもたちが通りますよみたいな、そういった対応というのはやっているんでしょうか、それとも、やる予定があるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今のところ、そういうのはございません。現場に応じて必要とあらば、また検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

夏場のときには、そういう通学路の点検というのは各地域でやっておられます。冬期間のやつというのは、やってないように私も捉えておりますので、今、議員ご提案があった点につきましては、ちょうど今、降雪期であるわけでありまして、冬場の通学路の全てとはいかないにいたしましても、危険な箇所というのは早急に少し点検をさせていただいて、それに対する対応。特に、どういう形で対応できるかというのをある程度。ことしは間に合わないかもしれません。しかし、来期に

向けて除雪期間等、そういったところをある程度把握させていただいて対応できるか、できないとしたら、どうすればいいのかという。やはり除雪も一気に、企業に今委託してるんですが、なかなかすぐできないと思うわけでございますので、そういったときには、どうすればいいのかというのは、どこかでやはり協議の場をつくって対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ありがとうございます。本当におっしゃるとおりで、雪国にしかわからないことなんで、先ほど言った夏場の全国的なものは、それはそうなんでしょうけども、やっぱりこの雪国ならではの問題点として、ぜひ糸魚川から声を上げていただいて、県を動かしていただいて、そういったところの対策を国にも言っていたきたいと思しますので、ぜひよろしくお願いします。

次、緊急車両の通行についてであります。今さら私に言われることもなく、皆さんのほうが、そういう救急車両が入る、入らないの把握というのは、されているかと思うんですが、積雪がないときというのは気にならないんですけども、積雪があることによって大変な事態を招くという事例がございまして、具体的には一の宮地区ですかね、火災があったときに、何か緊急車両が入らなくて大変困ったことがあったというふうにお聞きしました。

そのような場所の再確認と、降雪期のこの除雪体制並びに除雪機、そういう狭いところの地域にお願いして、除雪機を貸与して積極的に道幅を確保してもらおうとか、そういった取り組みが必要なんではないかというふうに思ひまして、提案といいますか、既にやられているのであれば、それはまた報告いただきたいんですが、そういった狭いところの除雪対策、緊急車両の通行の確保というところの取り組みについてお伺いしたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

狭い道路の除雪についてでありますけども、現在、市内で70台の小型除雪機を各地区に、各地区といたって全地区ではありませんけども、順番に貸与しております。大きな除雪機が入れない道路については、その小型除雪機を利用して除雪をしていただいているというのが現状で、これも毎年毎年5台から7台ぐらいずつ、5地区から7地区ふやしているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ちょっと質問しづらいんですけども、毎年5台、7台と貸与してるんですけども、まだ大分かかると思いますか、要望があるところに普及するまでには、大分年数がかかるというふうに捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

この小型除雪機対応の条例なんですけども、25年で終了だということだったんですけども、これを条例改正するという事で期間をまた5年間延長しております。それで今要望があるのは、たしか14から15地区だったと思っております。それでまた、まだ25年度予算は可決しておりませんけども、25年度では約7台購入したいということでもありますので、それが終わりますと、もう7台くらいあるということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

これにつきましては一昨年くらいまでは減ってきて、もうほとんど行き渡ったかなというような状況であったわけでございます。昨年の豪雪からまたふえておりますので、今、急遽そのように取り計らっている状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

わかりました。対応されていることも確認させていただきましたし、あともう一、二年みれば、何とか今の要望あるとこに対応できるということがわかりました。よろしく願いいたします。

次、4番、重要課題のほうにあります。先ほど1番のごみ処理についてであります。市長は減量を主にしていくという話でありました。であるならば、やはりそういったものを思い切り表に出して、こういうふうに行っていくんだということをお願いしたいと思うんですね。そうしないと、また今後出てくるいろんな処理方法だとか、構想だとか、そういったところに市長のごみ処理に対する哲学というか、理念というか、そういうものがきちんと見えてくると、それに合ったまた施策というのができると思うんですが、それがもしずれてしまうと、また途中で話が違う方向に行ったりすると思うので、その辺はしっかり、減量ということで押し出していきたいと思えます。

あとちょっと飛ばしますけども、新年度で念願のペレットストーブの設置助成制度を計上していただきました。これもすごく感謝しております。また、地元生産工場もでき、山林を持つ多く市民の協力をいただきながら、糸魚川市の環境保全と、間伐材の活用と、熱エネルギーの新産業おこしを兼ねた大きなプロジェクトへのスタートが、今切れる状況にさせていただいたというふうになっております。

他県では木質ペレットとペレットストーブの生産と製造、販売を手がけているところがあります。そういった先進地の取り組みを研究し、今度は糸魚川らしい木質ペレットストーブの展開を行い、野生動物と共存できる地域として、売り出していくべきだというふうになっております。

今後、このペレット使った、先ほども質問にありましたけど、野菜や果物のビニールハウス栽培、あとニシキゴイだとか、チョウザメとかスッポンはどうかわかりませんが、何かそういった熱を使って、そういったものを積極的に取り組んでいくべきだと思うんですが、そういった構想、考えみたいなものはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今まで山に切り捨てられていました間伐材を有効利用できる手段として、当市にペレットの製造工場が立ち上がっておるわけでございます。やはり市民にペレットの活用と、それから森林施業への目を向けていただくことも含めて、しっかりとPRしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ぜひ積極的にお願いいたします。

今度、（５）番目のほうに移りますが、先日、糸魚川市内で医大生にお会いいたしました。医師養成資金制度を利用してるということで、大変うれしく思いました。県の制度でなく、以前、秩父市の例を挙げて、この糸魚川市独自の医師養成資金貸与制度を提案したことが、このように成果を上げていることについては、私は米田市長の決断に大変評価しております。また、新年度におきましては、認定看護師の研修費助成を計上していただいて、これも感謝しております。

どちらも平成19年12月に提案した事業であり、糸魚川市内で頑張っておられる看護師さんにも大きな励みになるというふうに思っております。今後もこういった人材育成にぜひ糸魚川市としても力を入れていただいて、少しでも糸魚川で頑張れるという、そういった仕組みを医療の世界ばかりでなく、ほかのほうにもぜひ反映していただきたいことをお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、保坂 悟議員の質問が終了いたしました。

本日はこれにとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後4時12分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+